

「西宮で迎える産前・産後」調査報告書

～「みんなで助け合う子育て」実現への道しるべ～



2019年3月

認定 NPO 法人ムラのミライ & a little

調査の目的

この調査は、認定 NPO 法人ムラのミライと a little (ア・リトル) がジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループからの助成を受けて 2018 年 7 月より同年 11 月まで実施したものです。

私たちは、この調査が「みんなで助け合う子育て」実現への道しるべとなるよう内容を考え実施しました。調査に協力していただいたのは、20 代から 40 代までの 0 歳から 3 歳までの子どもを育てる父親、母親、そしてこれから父親、母親になる方たちです。全部で 104 人の方にインターネット上でアンケートにご回答いただき、そのうち 59 名は実際に会ってお話も伺いました。59 人の方に直接お話を伺った 6 人の調査員は全員、西宮市で子育てをしている女性たちです。

「妊娠、出産、子育てを安心してできる」、「そんな環境を地域で助け合うことでつくる」、私たちの願いは、それを西宮で実現することです。そのために、私たちは家事、育児をお互いに助け合う仕組みづくり、そしてその実践を続けてきました。その仕組み、実践をより確かなもの、もっと多くの人が使えらるものにするために、妊娠、出産、そしてその後の子育て中の母親、父親がどんな状況にあるのか、問題があるとすればどんな問題に直面しているのか、その解決法はあるのか、あるとして実際に役立っているのかなど、なるべく多くの方たちの直接の声を聞こうと思い、この調査を実施しました。

調査の内容

上記の目的を達成するためにアンケート（調査票）をつくり、直接面談しながらお話を伺うやり方(以下、個別インタビュー)と、インターネット上でアンケートを記入していただくやり方を併用しました。

アンケートは、30 ほどの質問からなっています。主な問いの内容は、妊娠、出産、産後の子育てなど、それぞれの段階で、行政、民間を問わずどのような情報があることを知っているのか、またどのようなサポートがあることを知っているのか、そして実際にそのような情報、サポートを活用しているのかを尋ねるものです。さらに、家事、子育てそれぞれにかかわる作業のうち、誰がどのような作業をどれだけ負担しているのかも尋ねています。

また、個別インタビューをさせていただいた方たちには、日常どの施設、サービス提供者（団体）、個人などにサポート、情報を求めているか、日々の買い物、保育園などの行動範囲を尋ね、それを地図に表示していきました。このようにして、西宮市で妊娠、出産、子育てをすることの全体像が少しでも見えるような工夫をしました。

アンケートに回答いただいた方たちの内訳は、以下の通りです。

- 産前の方： 23 名（うち妊娠中の女性 19 名、パートナーが妊娠している男性 4 名）
- 0～3 歳の子どもがいる方： 81 名（女性 76 名、男性 5 名）

Ijou104ninnouti

年齢別では：

- 20 代 6 名（うち産前 1 名）
- 30 代 70 名（うち産前 10 名）
- 40 代 28 名（うち産前 12 名）

出身別では、西宮市の出身者 23 名、西宮市以外の出身者が 81 名でした。

個別インタビュー回答者 59 名の方の内訳は、女性 56 名（うち妊婦 6 名）、男性 3 名でした。

目次

1. 産前の方へのアンケート結果	3
1-1. 妊娠・出産・子育ての講座について	4
1-2. 産前・産後のサポートについて	6
1-3. 家事・育児の負担、分担（パートナーとの）について	8
1-4. 家事・育児以外の仕事について	11
1-5. 妊娠中の情報源、相談相手や内容について	11
1-6. パートナーとの関係について	13
2. 0～3歳の子どもがいる方へのアンケート結果	15
2-1. 妊娠・出産・子育ての講座について	15
2-2. 産前・産後のサポートについて	20
2-3. 家事・育児の負担、分担（パートナーとの）について	25
2-4. 家事・育児以外の仕事について	32
2-5. 子連れの外出について	33
2-6. 妊娠・出産・育児の情報源や相談相手や内容について	35
2-7. パートナーとの関係について	39
3. 個別インタビューで作成した2つの地図	41
3-1. 場所の地図	41
3-2. つながりの地図	44
4. 結論	48
謝辞	49
添付資料	50
(1) 産前の方へのアンケート票	51
(2) 0～3歳の子どもがいる方へのアンケート票	55

1. 産前の方へのアンケート結果

産前の方へのアンケート結果の9のポイント

- ◆ 妊娠中に、妊娠、出産、子育てについての講座に出たことがある人が7割いました。
- ◆ 一番最近受けた講座は、民間や企業主催の講座が7割でした。
- ◆ 現在提供されている講座と今後受きたい講座のギャップがありました。今後受きたい講座は「産前・産後の体と心のケア」が最多でした。
- ◆ 妊娠中の情報源に、口コミやネット検索は意外に少なく、産院が主な情報源でした。
- ◆ 西宮市で利用できる産前・産後のサポート数は多く、認知度も高い一方で、行政の提供するサービスを利用した人は約1割しかいませんでした。
- ◆ 妊娠中のサポートを頼んだ人の多くは、実母を筆頭に個人的つながりのある人でした。
- ◆ 妊娠中の8割の妻が午後6時以降の帰宅する仕事をしていますが、夫の家事負担は妻の4割でした。
- ◆ 夫は、かなりの数の家事や育児の負担をしていました。しかしその中身は、妻の「見えない家事・育児」なくしては成立しない内容でした。妻が段取りをしたうえで、家事・育児を「手伝っている」現状が明らかになりました。
- ◆ ほぼ全ての人が、妊娠中の体と心の不調を経験していました。そうした悩みを相談した相手は、定期検診時の医療専門職がほとんどでした。パートナーとのコミュニケーションの時間は、とても短く、細々とした日々の連絡にも足りないような時間です。短い診察時間での医療専門職への相談と短いパートナーとの会話時間から、一人で心と体の悩みを抱え込んでいる妊婦の現状が浮かび上がりました。

産前の方へのアンケートの問は全部で27問あり、大きく分けて6つのパートからなっています。

最初のパート、問1から7までは、妊娠・出産・子育ての講座についての質問です。2番目のパート、問8から12までは、産前・産後のサポートについてです。3番目のパート、問13から16までは、家事・育児の負担、分担（パートナーとの）について、4番目のパート、問17から19は家事・育児以外の仕事について、5番目のパート、問20から25までは、妊娠中の情報源、相談相手、相談内容などについてです。そして、最後の6番目のパート、問26、27は、パートナーとの関係についてです。

1番目、2番目、そして5番目のパートは、どこから情報を得ているか、実際には何を（どんなサービスを、誰を）利用しているかについて尋ねています。3番目のパートは、自分が負担している家事、パートナーに分担（あるいは補助）してもらっている家事、そして育児について尋ねています。4番目のパートは、育児休暇の取得、仕事からの帰宅時間など、家事、育児に影響のあることを尋ねています。そして6番目のパートは、パートナーとのコミュニケーションの状況を尋ねています。

1-1. 妊娠・出産・子育ての講座について（問1から問7まで）

産前の方を対象に向けに様々な講座が開催されていますが、今回の調査で回答していただいた方の約7割が何らかの講座を受けています（表A-1）。

表A-1 【問1】妊娠・出産・子育てについて学ぶ講座に参加したことがありますか

はい	16
いいえ	7

講座の主催者をみると、一番最近受けた講座では民間、企業主催の講座が7割近くを占めています（表A-2）。

表A-2 【問2】「はい」の方、一番最近受けた講座はどこ主催の講座か覚えていますか
(1つだけ選択してください)

a. 自治体を実施する講座	1
b. 産院が実施する講座	4
c. その他の企業/団体が実施する講座	9

内容については、具体的な内容を受講した方が覚えているかどうか、実際に役立っているかどうかは、この調査からは定かには分かりませんでした。問3「テーマを覚えていますか」、問5「印象に残っているテーマは何ですか」への回答に見られるように、一番最近受講したものについても、講座全体のテーマ、あるいは講座全体のタイトルと思われるものを挙げている方がほとんどで、何が具体的なテーマだったのかが分かりません。ということは、講座の内容そのものがあまり印象に残っていない、あるいは、役立っていない可能性があります。例えば、特に印象に残ったテーマはなんでしたかという問いに対して、「映画」という回答があったり「出産に関して」であったり、内容については漠然としています（表A-5）。

表A-5 【問5】「はい」の方、参加された講座で、特に印象に残っている講座のテーマをご記入ください。

a. 手をつなぐ育成会	1
b. 虐待について	2
c. おむつ替え体験	1
d. パースプラン作成	1
e. 抱っこ	1
f. 映画	1
g. 出産に関して	1

これに対して、今後受けたい講座のテーマとしては、「産前・産後の心のケアについて」と、ついで「産前・産後の体のケアについて」が他のテーマを圧して多く、これまでに受講した講座が回答者たちの要求に答えていないことを示唆しています（表A-6）。

表 A-6 【問 6】以下のなかで、これから受けたい講座はありますか（最大 3 つ選んでください）

a. 産前・産後の体のケアについて	8
b. 産前・産後の心のケアについて	12
c. パートナーとの関係について	5
d. 産前・産後の家事・育児支援制度について	3
e. 妊婦の食と栄養について	2
f. 離乳食の作り方について	2
g. 妊娠中の運動（マタニティヨガ、スイミングなど）	3

では、問 4「どのように講座の情報を得ているか」を見てみると、「その他」と「産院」が多数でした。情報を得る場としては、やはり定期的に通う産院が最も可能性が高いということになるでしょう。これは、産院が主催する講座が比較的多かったことにもつながると思います。

意外に少ないのが「ネット」と「友人・知人」です。いわば“ロコミ”系が思ったよりも少ないということになります。

では「その他」は一体何かということに示唆を与えるのが、問 9 への回答です。問 9 は「産前産後のサポートで知っているもの」を尋ねています。この中で、「西宮市ファミリーサポート」、「あおぞら館・子育てひろば・児童館」、「西宮市子育てコンシェルジュ」が回答の上位を占めています。これらの取り組みは、直接のサポートを受けることのできる「西宮市ファミリーサポート」を除くと、産前の方への直接のサポートというより、どのようなサポートを受けられるのかという情報提供が主なものです。おそらく講座に関する情報源の「その他」とはこのような取り組みが主なものではないかと思われます（表 A-9-1）。

表 A-9-1 【問 9】次の取り組みのうち、知っているものを選んでください。（複数回答可）

a. 西宮市すこやか赤ちゃん訪問事業	13
b. 西宮市ヘルパー派遣事業	5
c. 西宮市妊婦への家庭訪問	6
d. 西宮市子育てコンシェルジュ	14
e. ミヤハグ	14
f. 西宮市ファミリーサポート	18
g. 西宮市病児・休日保育	12
h. 西宮市子育て家庭ショートステイ保育	3
i. アリトルの家事・育児サポート	9
j. 産後ドゥーラ	3
k. 民間の家事（育児）サポート	3
l. 兵庫子育て応援の店	9
m. 赤ちゃんの駅	5
n. あおぞら館・子育てひろば・児童館	14
o. こども未来センター	8

ただし、受講したい講座と現在提供されている講座のギャップを見る限り、これらの情報提

供者、機関が、ユーザーの声を聴く機会が少ないのではないかという懸念はぬぐえません。

出産については、回答者の6割以上が里帰り出産をしないと回答しています（表A-8）。この点でも、ユーザーの声をくみ上げるべきサポート諸機関の責任は大きいということになります。

表A-8 【問8】里帰り出産（もしくは産後実家に帰る）予定ですか

はい	7
いいえ	12

1-2. 産前・産後のサポートについて（問8から問12まで）

サポートに関しても、エンドユーザーであるが産前の方たちがどれだけサポートに関するアクセスがあるか、そして実際にどれだけ利用されているかを調査しました。

アクセスについては、十分にあると言ってもいいと思います。西宮市で利用できるサポートは、その数からいえば決して少なくはなく、またその存在も対象である方たちに十分認知されているのではないかという結果が調査からは出ています。

調査では、西宮市で提供されている行政、民間のサポートやサービス、施設など15の名前を示して知っているものを挙げてもらいました。その結果、1つしか知らないという回答者は3人であるのに対して、残り全ては複数のサービス、施設を知っている、特に6つ以上知っているという回答者は11人、全体の半数近くです。特に多くの回答者が挙げていたのは、西宮市ファミリーサポート、西宮市子育てコンシェルジュ、あおぞら館・子育てひろば・児童館など行政が提供するもので、回答者の60パーセントから80パーセントの方が知っているということになります（表A-9-2）。

表A-9-2 知っている取り組みの数（問9より）

1つしか知らない	3
2つ知っている	3
4つ知っている	2
5つ知っている	3
6つ以上知っている	11

では、実際にサポートを頼んだと答えた回答者は7人（全員妊娠中）で、7人全員が提供されているサービス、施設を5つ以上知っていました（表A-10-3）。

表A-10-3 知っている取り組みの数（問9より）

5つ知っている	1
6つ以上知っている	6

問11で「誰にサポートを頼んだのか」を複数回答であげてもらおうと、最も多かったのが実母、ついで義母、ア・リトルや民間企業の家事サポートが続いていました。なかでも実母は他の2倍と突出しています。どのようなサポートを頼んだのか、サポートの提供元から類推すると、実母、義母など家族、そしてそれ以外ではア・リトル、民間の家事サポートが全体の約9割を占めている事実から、ほとんどは家事、育児のサポートだということが分かりま

す。

行政の提供するサービスは、西宮市ファミリーサポートが2、西宮市病児/休日保育が1となっていて、西宮市ファミリーサポートは保育所（園）、幼稚園の送り迎え、学校の放課後、または留守家庭児童育成センター終了後の預かり、保育所の休みの日の預かり、会員の用事や育児支援のための預かりなど（例：沐浴援助）というサービスを会員に提供しています。したがって、この結果から類推できるのは、回答者が依頼したのは、行政以外のサポートは家事、育児、行政のサポートは育児に関することだろうということです。

さらに言えば、回答数の中で行政の提供するサービスが占める割合は約1割、あまり利用されてはいないということになります。つまり、行政は多くのサービスを提供している、しかしほとんど利用されていないという構図がこの調査からは見えてきます。それは、サービス提供機関の情報から言えば、行政の提供するサービス、施設が多く知られているのに対し、その情報が実際のサポート利用には結びついていないということにもなります。ただし、調査の母数が統計値とするにはあまりにも少ないので、ある程度の傾向を示す参考とみなすのが妥当でしょう。

ただ、参考程度としても、これほど利用が少ないのは、二つの可能性が考えられます。まず、提供するサービスがユーザーの希望するものと合致していない、あるいは希望と合致しているとしたらアクセスが難しい、つまり「使い勝手が悪い」ということです。もともと、この調査ではサポートを頼んだ回答者は回答者の40パーセントで、あとはサポートを利用していないということになります（表A-10-1）。

表A-10-1【問10】 これまでに家事(育児)サポートを頼んだことがありますか

はい	7
いいえ	9

では、サポートを頼まなかった回答者がサポートを希望していないかという点、サポートを希望しない回答者はわずか2人、ほとんどの方がサポートを希望しています（表A-12-1）。

表A-12-1【問12】 家事・育児サービスを利用するとしたら、どのサービスを希望しますか（最大3つ）

a. 食事づくり	9
b. 食材と日用品の調達（買い物）	1
c. 掃除・片付け	8
d. 子どもの預かり(自宅以外)	7
e. 子どもの送迎	7
f. 子どものお世話（自宅）	8
g. 家事・育児サービスを希望しない	2

そして、どのようなサポートを希望しているかをみると、食事づくり、掃除・片付け、子どものお世話（自宅）、子どもの預かり(自宅以外)、子どもの送迎が上位を占めています。いずれも日常繰り返し起こることで、しかも何かが突発的に起これば、例えば家族の誰かに病気が出るなど、その場でサポートが必要となることばかりです。この調査ではこれ以上の考察ができるデータはありませんが、現在あるサポート、特に行政から提供されるそれと対象となる人たちの希望とのギャップなど、解決しなければならない課題がありそうです。

1-3. 家事・育児の負担、分担（パートナーとの）について（問13から問16まで）

家事、育児についての設問は、誰がどれだけ負担をしているのかを明らかにするという目的がありました。まず、自分がやっている家事を複数回答であげてもらったのが、以下の結果です（表A-13-1）。

表A-13-1 【問13】この1週間であなたがやったすべての家事（複数回答可）

a. 掃除・献立作成と食事づくり	23
b. 食器洗い・片付け	22
c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）	20
d. 洗濯	20
e. ゴミ捨て	14
f. 銀行・役所・支払いなどの手続き	13
g. その他	6

以上を見る限り、aからeまでは、毎日、ほぼ毎日、あるいは最低でも週に2、3回はやらなければならない家事です。特にaからdまでは、毎日やっている方もあるでしょう。aからdまでとeとの違いは、発生する頻度の違いもさることながら、時間がかかる、かかからないかの差もあります。したがってeのところでは明らかに負担が減っているのは、自分がやらなくても誰か、例えばパートナーや子どもにまかせることができやすいという理由があるものと思われます。

次に、これらの家事をどれだけ負担しているか、何項目やっているかを示したのが次の表です（A13-2）。

表A-13-2 やった家事の項目（問13より）

7項目	5
6項目	5
5項目	9
4項目	2
2項目	1
1項目	1

これを見ると、ほとんどの方が5項目以上の家事をこなしていることとなります。事実、5項目と4項目の間にはかなりの差があります。また、この表で2項目、1項目と答えた方は男性です。ちなみに、7項目から5項目まで、答えた方はすべてその項目中に掃除、献立作成と食事づくり、食器洗い・片付け、食材や日用品の買い物（在庫管理含む）、洗濯を含んでいます。

次に、パートナーがいる方に、パートナーにやってもらった家事を挙げてもらいました（表A15-1）。

表A-15-1 【問15】この1週間でパートナーがやったすべての家事（複数回答可）

a. 掃除・献立作成と食事づくり	17
b. 食器洗い・片付け	14

c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）	10
d. 洗濯	10
e. ゴミ捨て	9
f. 銀行・役所・支払いなどの手続き	2
g. その他	2

この表を見る限り、パートナー（夫）もかなり家事をこなしている印象を与えます。では、どのくらいの項目の家事をこなしているかを見てみましょう（表 A15-2）。

表 A-15-2 パートナーがやった家事の項目数（問 15 より）

6項目	2
5項目	6
4項目	5
3項目	1
2項目	1
1項目	4

これを見る限り、こなしている項目数は大体 5 項目、4 項目のあたりに集中しています。ただ、女性の場合、4 項目以下はほとんどいなかったのに対して、ここでは 4 項目以下が約 6 割を占めています。それでは、妻と夫の家事負担の程度を比べてみましょう（表 A15-3）。

表 A-15-3 【問 15-2】妻と夫の家事比較（問 13 と問 15 より）

	妻	夫	項目別の妻に対する夫の家事の割合
a. 掃除・献立作成と食事づくり	23	17	73%
b. 食器洗い・片付け	22	14	63%
c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）	20	10	50%
d. 洗濯	20	10	50%
e. ゴミ捨て	14	9	64%
f. 銀行・役所・支払いなどの手続き	13	2	15%
g. その他	6	2	33%

上記の表から、平均値を割り出すと 43 パーセントで、夫は妻の 4 割ほどの家事をしているということになります。しかし、実際にはこれほどの負担をしているかは定かではありません。その根拠となるのは、項目の「f. 銀行・役所・支払いなどの手続き」が極端に少ないことで、これはいわゆるウィークデーにしかできないことです。つまりは、ウィークデーは妻が主に家事を負担し、休日に夫が家事を分担しているという可能性があります。

次に、家事の負担項目数を比較してみましょう（表 A15-4）。

表 A-15-4 妻と夫の家事比較（問 13 と問 15 より）

	妻	夫
7 項目	5	0
6 項目	5	2
5 項目	9	6
4 項目	2	5
3 項目	0	1
2 項目	1	1
1 項目	1	4

この表の結果から分かるのは、5 項目以上の場合、やはり夫は妻の 4 割程度の家事しか負担していないということになります。問 17 では「家事・育児以外に仕事をしているか」を尋ねていて、約 8 割の方が「はい」と答えています。つまり、妊娠中のほとんどの妻が仕事をしていて家事もその項目数だけを見ても、妻の方が主に家事を担っているという構図が見えてきます。

育児についても、同じように比較してみましょう（表 A-16-3）。

表 A-16-3 妻と夫の育児事比較（問 14 と問 16 より）

	妻	夫	項目別の妻に対する夫の育児の割合
a. 着替え（オムツ替え）	9	8	88%
b. 子ども用の洗濯	14	7	50%
c. 子ども用品の在庫管理	10	2	20%
d. 子ども用品の買い物	9	0	0%
e. 子どもと遊ぶ	12	12	100%
f. 寝かしつけ	10	7	70%
g. お風呂に入れる	11	9	81%
h. ご飯づくり	15	7	46%
i. ご飯を食べさせる	11	8	72%
j. 幼稚園・保育園等の送迎	8	6	75%
k. 幼稚園・保育園等との連絡	12	2	16%
l. その他	4	3	75%

着替え（オムツ替え）、子どもと遊ぶ、寝かしつけ、お風呂に入れる、ご飯を食べさせる、幼稚園・保育園の送迎など、高いパーセンテージの項目を見ると、「イクメン」パパの面目躍如といった趣があります。

しかし、同時に負担率が 50 パーセント以下の項目も 5 項目ほどあります。その項目を見ると、子ども用の洗濯、子ども用品の在庫管理、子ども用品の買い物、ご飯づくり、幼稚園・保育園等との連絡と、目立たない、言ってみれば育児に関する「舞台裏」のような項目ばかりであることに気づきます。別の表現をすれば、オムツが足りなくなれば買いに行き、オムツ替えができるようにする仕事、幼稚園や保育園で子どもがつつがなく過ごせるように体の状態、持ち物、その他もろもろの連絡をするなど、それなしでは育児そのものが成り立たない項目です。つまり、「イクメン」パパの育児とは、段取りされたことを補助的にやっている、という構図がこの調査からは見えてきます。

1-4. 家事・育児以外の仕事について（問 17 から問 19 まで）

問 17 「家事・育児以外のお仕事をされていますか」への答えで分かるように、回答者の約 8 割が家事、育児以外の仕事をしています（表 A-17）。

表 A-17 【問 17】 現在、家事・育児以外のお仕事をされていますか

はい	19
いいえ	4

しかし、育休を取ると答えた方は、そのうちの 5 割弱にとどまり、3 人からはこの問いに対する答えがありませんでした（表 A-18）。

表 A-18 【問 18】 育休を取る予定ですか（問 17 で「はい」の方）

はい	9
いいえ	7

一方、育休を取らないと答えた方は、仕事をしていると答えた人の 3 割強あります。育休を取らないという選択の理由として考えられるのは、勤め先に育休の制度がない、あるいは出産の時期になったら仕事を辞めるなどです。

問 19 では、仕事からの帰宅時間を尋ねています（表 A-19）。

表 A-19 【問 19】 先週 1 週間の帰宅時間（仕事を終えた時間）で、一番多いのは何時でしたか（問 17 で「はい」の方）

a. 午後 5 時前	4
b. 午後 5 時～6 時	3
c. 午後 6 時～7 時	7
d. 午後 7 時～8 時	5

これで見ると、約 8 割の方が午後 5 時以降の帰宅、約 6 割の方が午後 6 時以降の帰宅となっており、仕事を持つ方の 8 割はフルタイムで仕事をしていることが推量できます。しかしながら、前のセクション(1-3)で検討したように、家事と育児はそのほとんどを負担している様子がうかがえました。

1-5. 妊娠中の情報源、相談相手や内容について（問 20 から問 25 まで）

問 20 は、「あなたが妊娠・出産・育児についての情報を得ているインターネットのサイトはどこですか」というものです。先に、産前に受講する講座の情報をどこで得ているか(1-1)というところでも見ましたが、そこでも意外なほどインターネットという情報源は使われていません。問 20 で特定のサイトを挙げた人は、わずか 4 人ととどまります（表 A-20）。

表 A-20【問 20】あなたが妊娠・出産・育児についての情報を得ているインターネットのサイトはどこですか

検索して上位にあがったまとめサイト	1
特定のサイトはなし	2
まいたま(スマホアプリ)	1
トツキトオカ(スマホアプリ)	1
神戸新聞すきっぷ	1
たまひよネット	1
西宮市の子育て関連ホームページ	1
ママびより(スマホアプリ)	1
グーグル	1
ママリ	1
回答無し	15

続いて、問 21「心と体の悩み」を誰かに相談したかという問いに対して、16 人、約 7 割の方が「はい」と答えています。

では、問 25「誰に相談したか」という問いに対して、そのようなことに対してある程度専門的なアドバイスをできる相談相手は、回答の選択肢としては「産科医」、「看護師・助産師」、「保健師」があがっています。しかし、その回答数は合計しても 13 で、複数回答ですから、一人で上記の専門職の複数人に相談したケースもあると想定すると、13 人かそれ以下の人数しか専門職には相談していないということになります。産科医の場合は、妊娠中の定期検診の時に相談するというケースが多いでしょうから、あまり時間をかけるということがないのではないかと思います。

では、具体的に「どんな状態になったか」を尋ねる問 25 に対しては、以下の表のような答えが返ってきています（表 A-25-1）。

表 A-25-1【問 25】妊娠中に、こんなことはありましたか（複数回答可）

a. 気が沈んだり、気が重くなる	8
b. 騒音が気になった	2
c. 朝が特に無気力	4
d. 会話に集中できない	3
e. わけもなくイライラして家族にあたってしまう	6

これも複数回答ですから、「気が沈んだり、気が重くなる」、「わけもなくイライラして家族にあたってしまう」、「朝が特に無気力」などが重なっていると、これ以上症状がひどくならない前に適切なアドバイスを受けて対処した方がよいと思われます。

この時に気になるのが、問 22「誰に相談したか」という問いに対する回答で、「パートナー」と答えている人が全体の 3 割弱、6 人ととどまっていることです。奇しくもこの 6 人という数字は、次の「1-6. パートナーとの関係について」にある「一番最近パートナーと 15 分以上話しをしたのはいつですか」という問いに対して「今日」と答えた 6 人という数字と一致しています。必ずしも問 22 の回答者 6 人と問 26 の回答者 6 人が一致しているとは限りませんが、このような悩み事が日常的に相談できるようなパートナーが 6 人しかいないという可能性もあります。できれば、まず悩みごとはパートナーに相談し、そして二人でさらに

専門家に相談して解決法を探る、というのが望ましい在り方ですが、この調査からはそのようなケースは稀ではないかという状況がうかがえるようです。

実際に個別インタビューをした回答者からは、「相談する人はいない」、「心療内科の先生に相談する」、「不安になると呼吸が乱れるので、医師に相談した」、「妊娠中の通院するときにいつも助産師に話を聞いてもらっていた」という例がありました。

この中で当然問題なのは妊娠中に「相談する人はいない」と答えた方です。妊娠中の不調はある程度乗り切っても、産後に発生するであろう様々な問題は、このままでは対処するのが難しいだろうと思わせるものがあります。

「相談する人はいない」とは、そもそも「相談する人」に関する情報・知識がない、例えば「心療内科の先生に相談する」のような知識がない、あるいは、「相談する」という発想そのものがないと考えられます。このような方にどのようなアプローチをすれば、必要なサポートを受けてもらえるかという点が、課題となります。

1-6. パートナーとの関係について（問 26 から問 27 まで）

この調査の結果で判断する限り、パートナーとの関係が良好かどうかはさておき、明らかにコミュニケーションは不足している状態です。次の表は、問 26「一番最近パートナーと 15 分以上話しをしたのはいつですか」に対する回答です（表 A-26）。

表 A-26【問 26】一番最近パートナーと 15 分以上話しをしたのはいつですか

a. 今日	6
b. 昨日	5
c. 1 週間くらい前	2
d. 1 カ月以内でどこか	6
e. 1 カ月から 5 カ月以内でどこか	1
f. 半年以上前	0
g. 1 年以上前	0
h. いつか覚えていない	1
i. LINE や SNS でのやりとりのみ (電話や対面なし)	2

「LINE や SNS でのやりとりのみ」というのは、パートナーが単身赴任、という想定もできますが、それにしても、1 週間以内にたかだか 15 分程度の話ができて回答者が 11 人しかいないというのは、驚くべきことです。次に、そのわずかなコミュニケーションのうちに何を話題にしているかというのが、問 27 への回答です（表 A-27-1）。

表 A-27-1【問 27】パートナーと次のことを話し合ったことがありますか（複数回答可）

a. 妊娠中の心と体の変化について	12
b. 出産準備（買い物など）について	10
c. 出産当日のことについて	9
d. 産後の家事・育児について	5
e. お金のこと	11
f. 将来の家族像について	5

g. 産後の仕事について	7
h. 子どもの預け先（保育所など）について	5
i. 自分の時間の持ち方について	1
j. 赤ちゃんの名前について	7

この結果を見ると、回答に二種類あることが分かります。一つは、出産準備、出産当日、お金のことなどいわば実務的なこと、そしてもう一つは妊娠中の心と体の変化、産後の家事・育児についてなど、実務的にこなすというより、時間をかけて話し合ったり、解決したりしなければならないことです。その中で、特に「妊娠中の心と体の変化」が突出して多いのは、現在進行形で実務的に処理できないけど、すぐにも解決しなければならないという緊急性があるからでしょう。しかし、このように切実な問題も、パートナーとのコミュニケーションがこれほど少ないと、大方は一人で抱え込まなければいけないということになります。

次の表は、一体、いくつの話題をパートナーと話しているかをまとめたものです（表 A-27-2）。

表 A-27-2 話題の数（問 27 より）

10	2
8つ	1
7つ	1
6つ	1
5つ	3
4つ	2
3つ	2
2つ	5
1つ	1

問 27 であがった話題は、その優先順位はともかく、暮らしを共にするカップルならどれも欠くことのできない話題であるにもかかわらず、その半分でも話したことのある回答者が 8 人、回答者数の半数にも満たないことも、パートナーとのコミュニケーションが著しく不足していることを裏付けています。

2. 0～3歳の子どもがいる方へのアンケート結果

0～3歳の子どもがいる方へのアンケート結果の9のポイント

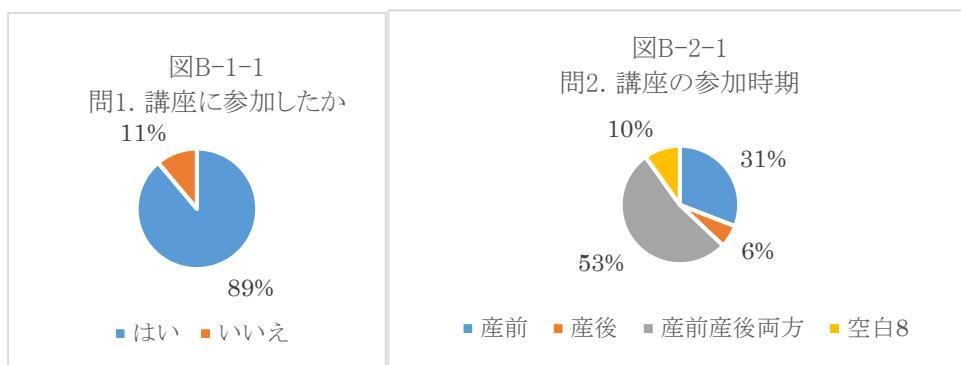
- ◆ 約9割の方が、お産や子育てについて学ぶ何らかの講座を受けており、5割強の方が、産前と産後の両方に講座を受けていました。
- ◆ 産院が主催する講座を受講している人が4割と、他に比べて圧倒的に多かったです。
- ◆ これまでに受講した講座とこれから受けたい講座のギャップがありました。特に、産前・産後の体や心のケアや産後（産前）の家事・育児支援制度について知る講座への要望が高いようです。
- ◆ 情報源は少ないながらも、公的なサポート機関や制度は十分周知されていました。しかし、実際にはわずかにしか利用されておらず、個人的なつながりのある人(実母が最多)に家事・育児サポートを頼む人が圧倒的多数でした。
- ◆ 急場（病気、ケガなど）のときにすぐに活用できる家事・育児サポートに対応できる制度やそれらの制度をどうやって活用するのか、というテーマの講座が求められていました。
- ◆ 「子どもの預かり(自宅以外)」をサポートに希望する人が断然多いことは、育児に疲れている状態、女性たちの悲鳴が聞こえてくるようでした。しかし、こうした希望がかなえられる機会が、当事者の周囲にあるかどうか、また希望が実際の行動となってそのような機会を得るためにサポートを求めるかどうかは別の問題です。
- ◆ 家事も育児も夫は妻の補助（手伝い）をしていた事実が数字で明らかになりました。
- ◆ 悩みごとのトップは産前の方たちと同様に「自分の体のこと」、「自分の心のこと」最多でした。産後に何らかの体の不調を感じながら、さらに育児にも悩む姿が見えました。
- ◆ パートナーとのコミュニケーションの時間が不足しています。切実な問題も、パートナーとのコミュニケーションがこれほど少ないと、大方は一人で抱え込むしかないというのが現状です。

0～3歳の子どもがいる方へのアンケートは31の問いからなっています。構成は、産前の方たちへのアンケートとほぼ同じですが、子どもとの外出というパートが産前の方たちに対するアンケートにはなかったパートです。

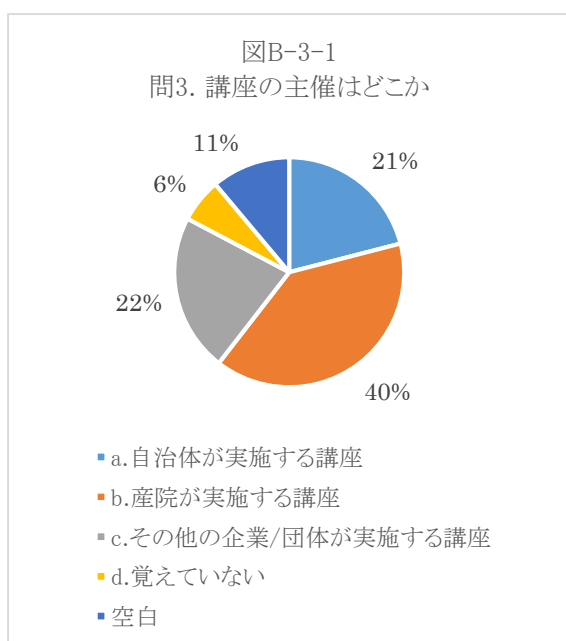
最初のパート、問1から8までは、出産や子育てについて学ぶ講座についての質問です。2番目のパート、問9から13までは、産前・産後のサポートについてです。3番目のパート、問14から17までは、家事、育児の負担、分担（パートナーとの）について、4番目のパート、問18から20は仕事について、5番目のパート、問21から23までは、子ども連れの外出について、6番目のパート、問24から29までは妊娠・出産・育児の悩みについての相談相手、相談内容などについてです。そして、最後の7番目のパート、問30、31は、パートナーとの関係についてです。各パートの問いの構成は、前のセクション（1.産前の方へのアンケート結果）のそれに準じています。

2-1. 妊娠・出産・子育ての講座について（問1から問8まで）

今回の調査で回答していただいた方の約9割が何らかの講座を受けています（図B-1-1）。また、5割強の方が、産前、産後ともに受講されています（図B-2-1）。



講座の主催者を見ると、一番最近受けた講座では産院主催の講座が圧倒的に多く、4割を占めています（図B-3-1）。



問4「講座のテーマを覚えていますか」への回答は、産前の方へのアンケート結果（1-1）と同様に、一番最近受講したのものについても、講座全体のテーマ、あるいは講座全体のタイトルと思われるものを挙げている方がほとんどで、何が具体的なテーマだったのかが分かりません（表B-4-1）。そのなかでも、具体的なテーマとして離乳食が突出して多かったのは、ちょうど乳児を育てている最中の方たちが必要としていたタイミングに合っていたからかもしれません。

表B-4-1【問4】 講座のテーマを覚えていたらご記入ください（問1で「はい」の方）

a. おむつなし育児	1
b. パートナーシップ	4
c. 新生児のお世話の仕方（入浴、ベビー体操、マッサージ、抱っこ、予防接種など）	6
d. 母親学級、マタニティスクール（妊娠、出産、育児など）	7
e. 離乳食	10
f. 子どもの歯の健康	2

g. 応急処置の仕方	1
h. 家の中での事故防止	1
i. 呼吸法	3
j. 栄養	1
k. 妊娠の経過	1
l. 食育関係	4
m. 子育て（自立、自己肯定感、など）	6
n. 産後（認知行動療法、産褥期の体と心、など）	3
o. 卒乳と断乳の違い	1
p. 体操	1
r. 妊婦体験	1
s. 無痛分娩セミナー	1

では、主催ごとにどのような違いがあるかを見てみましょう。以下の3つの表は、自治体、産院、その他の団体・企業の3つのカテゴリごとのテーマを示しています（表 B-4-2、表 B-4-3、表 B-4-4）。

表 B-4-2 自治体を実施する講座のテーマ（問4より）

c. 新生児のお世話の仕方（入浴、ベビー体操、マッサージ、抱っこ、予防接種など）	1
e. 離乳食	4
f. 子どもの歯の健康	1
g. 応急処置の仕方	1
h. 家の中での事故防止	1
i. 呼吸法	1
l. 食育関係	3
m. 子育て（自立、自己肯定感、など）	4
覚えていない	1

表 B-4-3 産院を実施する講座のテーマ（問4より）

c. 新生児のお世話の仕方（入浴、ベビー体操、マッサージ、抱っこ、予防接種など）	3
d. 母親学級、マタニティースクール（妊娠、出産、育児など）	7
e. 離乳食	2
i. 呼吸法	2
m. 子育て（自立、自己肯定感、など）	1
n. 産後（認知行動療法、産褥期の体と心、など）	1
p. 体操	1
r. 妊婦体験	1

s. 無痛分娩セミナー	1
覚えていない	1

表 B-4-4 その他の企業/団体が実施する講座のテーマ (問4より)

a. おむつなし育児	1
b. パートナーシップ	4
c. 新生児のお世話の仕方(入浴、ベビー体操、マッサージ、抱っこ、予防接種など)	2
e. 離乳食	4
l. 食育関係	1
m. 子育て(自立、自己肯定感、など)	1
n. 産後(認知行動療法、産褥期の体と心、など)	1
o. 卒乳と断乳の違い	1

以上を見ると、特に主催別による特徴はありません。言い換えれば、どこも同じような内容の講座を開催し、ユーザーがどのような講座を受講したいのか、どのようなニーズがあるのか、よく調べていないのではないかという懸念があります。特に、産後に受講する講座については、ユーザーの希望との乖離があるように思われます。それは、今後受けるとしたら、あるいは受けたかったテーマは何かという問7に対する回答を見ると明らかになります(表B-6-1)。

表 B-6-1【問7】以下のなかで、これから受けたい講座(受けたかった講座)はありますか(最大3つまで)

a. 産前・産後の体のケアについて	20
b. 産前・産後の心のケアについて	18
c. パートナーとの関係について	11
d. 産後(産前)の家事・育児支援制度について	19
e. 妊婦の食と栄養について	10
f. 離乳食の作り方について	21
g. 妊娠中の運動(ヨガ、スイミングなど)	20
h. 特に受けたい講座はない	13

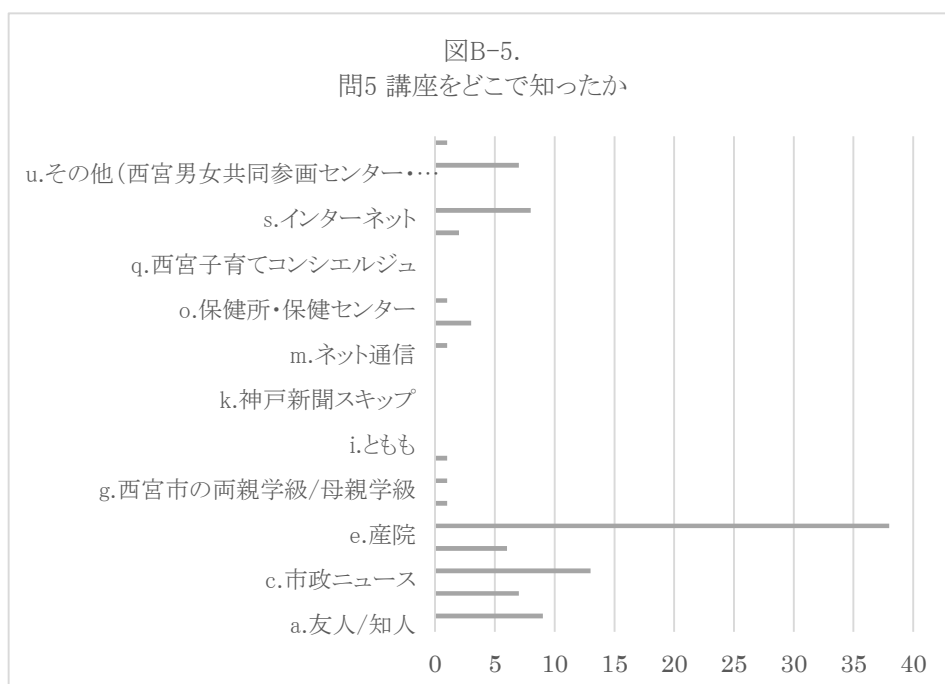
産前・産後の体や心のケアについては、産前の方たちからの希望も多かったテーマですが、ここでもかなりの要望があります。例えば個別インタビューを受けた方からのコメントとして、「心のケアについては、一人目の時にやっておらず、しんどさを経験したので」というものがありました。

実は、産後1年以内の妊産婦の死因の第1位が産後うつによる自殺です（厚生労働省研究班による：朝日新聞2018年9月5日）。

その他、「母乳についての具体的な方法」、「子どもと離れたいという気持ちについて」、「おむつなし育児」など個別インタビューで得たコメントがありますが、特にこの「子どもと離れたいという気持ちについて」は取りようによっては子育てに心身ともに疲れていると思わせるものがあります。

前出の表B-6-1に見るように「産後（産前）の家事・育児支援制度について」も要望の多いテーマでしたが、やはり、講座のテーマも、そして産前・産後のサポート体制もこのような声に十分応えていくことが必要に思えます。

では、どのように講座の情報を得ているかを見てみると、やはり「産院」が多数でした（図B-5）。



ちなみに、西宮市出身ではない方で、西宮市に居住するようになって5年以上経つ方がどれだけ情報源を持っているかを示したのが以下の表です（表B-5-8）。

表B-5-8 西宮市出身以外の人で5年以上居住している人の情報源として（問5より）

11 あげた人	1
3つあげた人	1
2つあげた人	2
1つだけ	20

また、次の表は、回答者全体で複数の情報源を挙げた方です（表B-5-9）。

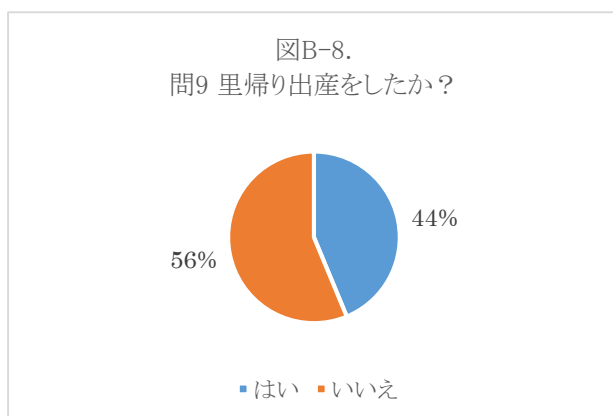
表 B-5-9 回答者全体で複数の情報源を挙げた人 (問 5 より)

11 あげた人	1
4 あげた人	1
3 あげた人	3
2 あげた人	12

これを見る限り、西宮市での居住年数の長さはそのま情報源の多さに結びついていないことが分かります。情報や講座、サポートサービスを提供する側は、どのようにしたらより多くの人に情報が届くかを改めて考える必要がありそうです。

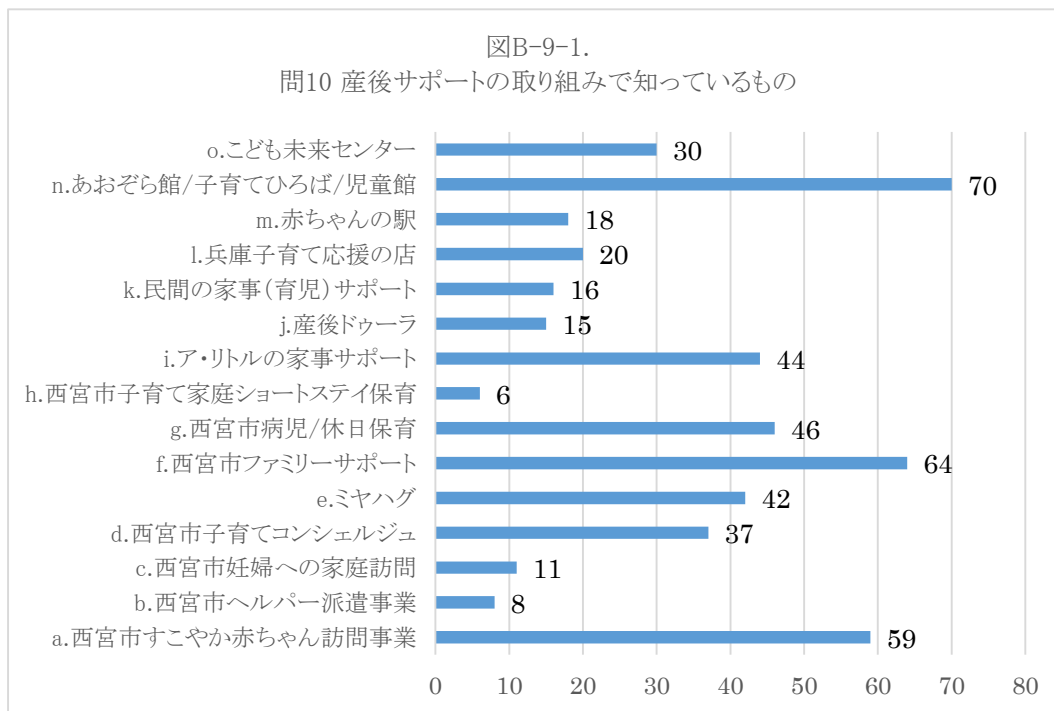
2-2. 産前・産後のサポートについて (問 9 から問 13 まで)

図 B-8 は、里帰り出産をしたかどうかを尋ねた結果を示しています。半数以上、6 割弱の方が里帰りをせずに出産していることが分かります。



「はい」と答えた方は 35 人でした。そのうち西宮市出身者は 8 人です。ですから、残りの 27 人が西宮市以外で出産していることとなります。逆に、「いいえ」と答えた 45 人のうち 36 人が非西宮市出身者です。したがって 9 人の西宮市出身者は里帰りしないで出産したこととなります。実家が西宮以外の土地に引っ越されたのでしょうか。ちなみに、非西宮市出身者で在住 5 年以上の方のうち、里帰り出産が 9 人、西宮市で出産された方が 16 人でした。

次の図は、産後サポートの取り組みで回答者が知っているもの（複数回答）を示しています（図 B-9-1）。



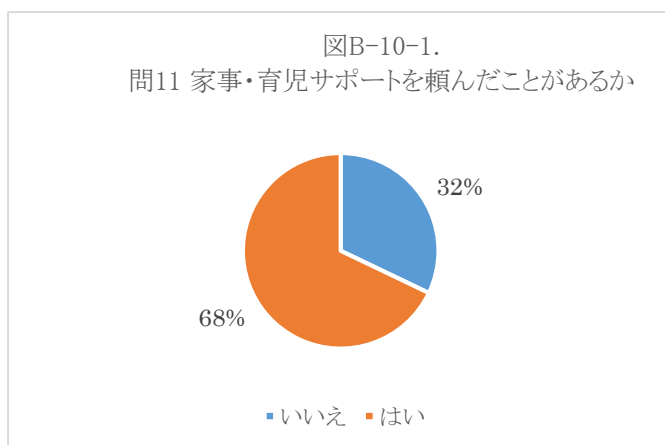
次の表は、回答者がいくつ取り組みを知っているかを示しています（表B-9-2）。

表B-9-2 知っている取り組みの数（問10より）

1つしか知らない	2
2つ知っている	9
3つ知っている	7
4つ知っている	7
5つ知っている	12
6つ以上知っている	42

この表で明らかのように、ほとんどの方は複数の取り組みを知っていて、特に6つ以上取り組みを知っている方が多いのが分かります。情報源が決して多いとは言えないのに、取り組みの存在自体は比較的良好に知られていると言ってよいでしょう。

では、実際にサポートは受けているのでしょうか。それを示すのが次の図です（図B-10-1）。



この図を見ると、7 割弱の方が何らかのサポートを受けていることが分かります。では、誰にサポートを頼んだかを見てみましょう（表 B-11-1）。

表 B-11-1 サポートを頼んだ人の組み合わせ（複数回答は回数の多い人を 3 人まで 問 12 より）

家族以外のサポートと家族のサポート両方を頼んだ人	16
家族以外のサポートだけを頼んだ人	3
行政サービス以外のサポートを受けた人	4
家族以外のサポートも受けた中で複数のサポートを受けた人	5
ア・リトルのサービスを受けた人	3
行政サービスだけを利用した人で家族のサポートを受けなかった人	0
行政、民間のサポートを利用した人で家族のサポートを受けなかった人	2

この表によれば、回答した方の約半数が「家族以外のサポートと家族のサポート両方を頼んだ」ことが分かります。では、その内訳がどうなのかを示したのが次の表です（表 B-11-2）。

表 B-11-2 【問 12】 サポートを頼んだ人

a. 実母	44
b. 実父	8
c. 義母	21
d. 義父	4
e. きょうだい	12
f. 親戚	1
g. 友人	4
h. ア・リトル家事サポート	3
i. 産後ドゥーラ	1
k. 西宮市ヘルパー派遣事業	3
l. 西宮市ファミリーサポート	10
m. 西宮市病児/休日保育	4
n. その他	1

この表で分かるように、やはり実際にサポートを頼む相手は実母、義母が主で、特に実母が突出しています。また、友人までを含む個人的つながりでサポートを頼むケースが、全体の約 8 割と、行政、団体が提供するサポートの利用がわずか 2 割程度にとどまっているのが分かります。

次の表は 2 人あるいは 2 つ以上のサポート機関に頼んだ内容を示したものです（表 B-11-3）。

表 B-11-3 サポートを頼んだ人 2 つ以上の組み合わせ (問 12 より)

a. 実母, b. 実父	3
a. 実母, c. 義母	7
a. 実母, e. きょうだい	4
a. 実母, l. 西宮市ファミリーサポート	2
c. 義母, d. 義父	1

この表によれば、組み合わせとしても最も多いのが「実母・義母」で、親族以外が入る組み合わせはありません。次の表は、同じく 3 人あるいは 3 つ以上のサポート機関に頼んだ内容を示したものです (表 B-11-4)。

表 B-11-4 サポートを頼んだ人 3 つ以上の組み合わせ (問 12 より)

a. 実母, b. 実父, c. 義母	2
a. 実母, b. 実父, e. きょうだい	2
a. 実母, c. 義母, d. 義父	3
a. 実母, c. 義母, e. きょうだい	2
a. 実母, c. 義母, l. 西宮市ファミリーサポート	1
a. 実母, e. きょうだい, l. 西宮市ファミリーサポート	1
a. 実母, e. きょうだい, m. 西宮市病児/休日保育	1
a. 実母, e. きょうだい, f. 親戚	1
a. 実母, g. 友人, l. 西宮市ファミリーサポート	2
a. 実母, g. 友人, m. 西宮市病児/休日保育	1
a. 実母, h. ア・リトル家事サポート, k. 西宮市ヘルパー派遣事業	1
a. 実母, l. 西宮市ファミリーサポート, n. その他	1
b. 実父, c. 義母, d. 義父	1
c. 義母, e. きょうだい, l. 西宮市ファミリーサポート	1
c. 義母, l. 西宮市ファミリーサポート, m. 西宮市病児/休日保育	2
h. ア・リトル家事サポート, k. 西宮市ヘルパー派遣事業, l. 西宮市ファミリーサポート	2

この表を見ても、親族以外だけにサポートを頼んでいるのは、わずかに 2 例です。親族 1 対公的サポート機関 2 の組み合わせも 6 例、全体の 2 割強でしかありません。つまり、公的なサポート機関の存在を知っていても実際にはわずかにしか利用されていないということです。

その理由として考えられるのが、産前の方へのアンケート結果 (1-2) 同様に、提供されるサービスがユーザーの希望するものと合致していない、ユーザーがサポートの内容をよく知らない、知っていてもアクセスが面倒だ、頼みにくい、急場に間に合わない、つまり「使い

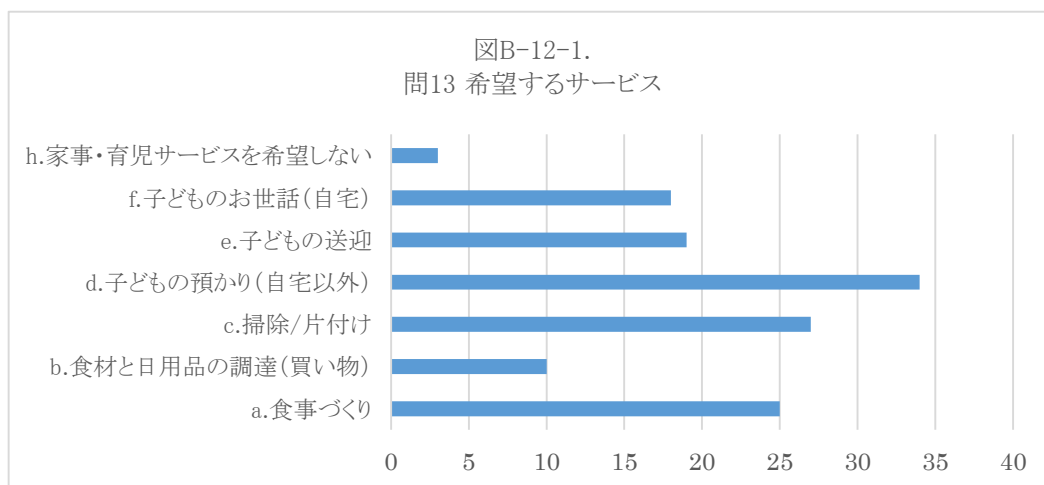
勝手が悪い」などが考えられます。

現に、個別インタビューでも「急な対応をしてくれることが必要」というコメントがありました。これはもっともなことで、子どもが熱を出すとか、親が体調を崩すとか、あらかじめ予定を立てるのが不可能なことばかりで、日常起きることはいわば急場のことばかりです。

サービスを提供する側も、このことを前提にサポートを組み立てる必要があるとともに、利用する側も常に近場でこのような急場に対応してくれる取り組み、施設を知っておく必要があります。

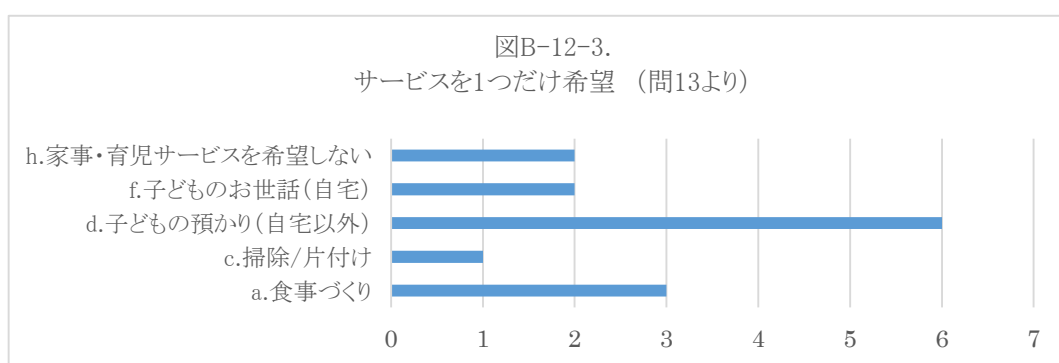
この点、前セクション(2-1)でも見たように、講座のテーマとして設けてほしいものの中に「産後(産前)の家事・育児支援制度について」が相当数あがっていました。これは、以上のような理由からもまさに必要なテーマだと言えます。

では、どのようなサービスを希望するかを示したのが次の図です(図B-12-1)。



これは、最大3つまで希望を挙げてもらっています。これを見ると、子どもの預かり、掃除、片付け、食事作りが多数を占めています。

サービスを1つだけ希望するとしたら何を希望するかを尋ねたのが、次の図です(図B-12-3)。



これを見ると、子どもの預かり(自宅以外)が突出しています。

では、サポートを3つ希望した場合、どのような組み合わせになっているのかを示したのが次の表です(表B-12-5)。

表 B-12-5 サービスを3つ希望する人の組み合わせ (問13より)

a. 食事づくり, b. 食材と日用品の調達 (買い物), d. 子どもの預かり (自宅以外)	1
a. 食事づくり, b. 食材と日用品の調達 (買い物), f. 子どものお世話 (自宅)	3
a. 食事づくり, c. 掃除/片付け, d. 子どもの預かり (自宅以外)	4
a. 食事づくり, c. 掃除/片付け, e. 子どもの送迎	3
a. 食事づくり, c. 掃除/片付け, f. 子どものお世話 (自宅)	3
a. 食事づくり, d. 子どもの預かり (自宅以外), e. 子どもの送迎	4
a. 食事づくり, d. 子どもの預かり (自宅以外), f. 子どものお世話 (自宅)	3
b. 食材と日用品の調達 (買い物), c. 掃除/片付け, d. 子どもの預かり (自宅以外)	1
b. 食材と日用品の調達 (買い物), e. 子どもの送迎, f. 子どものお世話 (自宅)	1
c. 掃除/片付け, d. 子どもの預かり (自宅以外), e. 子どもの送迎	5
c. 掃除/片付け, d. 子どもの預かり (自宅以外), f. 子どものお世話 (自宅)	4
d. 子どもの預かり (自宅以外), e. 子どもの送迎, f. 子どものお世話 (自宅)	2

実に12の組み合わせのうち8つの組み合わせに「子どもの預かり (自宅以外)」が入り、希望延べ数の約8割を占めています。次の「2-3. 家事・育児の負担、分担 (パートナーとの) について」のセクションで見ますが、「育児」が相当の負担になっている可能性、つまりは家事も育児も限りなくいわゆる「ワンオペ」状態になっていることの反映かと思われます。

ここで気を付けなければいけないのは、以上の希望はあくまで希望であって、この希望がかなえられる機会が、実際に当事者の周囲にあるかどうか、また希望が実際の行動となってそのような機会を得るためにサポートを求めるかどうかはまた別だということは、これまで見てきたとおりです。

2-3. 家事・育児の負担、分担 (パートナーとの) について (問14から問17まで)

次の表は、問14 (この1週間であなたがやったすべての家事にチェックをしてください) の結果です (表 B-13-1)。

表 B-13-1【問14】この1週間であなたがやったすべての家事にチェックをしてください (複数回答可)

a. 掃除・献立作成と食事づくり	68
b. 食器洗い・片付け	68
c. 食材や日用品の買い物 (在庫管理含む)	68
d. 洗濯	66
e. ゴミ捨て	53
f. 銀行・役所・支払いなどの手続き	46
g. その他	13

毎日やらなければならないことか、週に2,3度のことかなど頻度で数字がはっきり分かれています。言い換えれば、上記の表aからdまでは毎日毎日繰り返し繰り返し行わなければならないことで、一回終わったからといって達成感に浸ることができないことです。

洗濯一つとっても、汚れ物を洗濯機に入れる、洗濯する、干す、取り入れる、たたむ、タンスに入れる、という一連の作業全てをこなして初めて「洗濯をする」という行為が終わります。

これに加えて、洗剤を調達する、時々洗濯機そのものを洗淨する、洗濯ばさみやハンガーを補充するなど、洗濯をするための条件を整える作業もあります。これら全てで「洗濯」なのです。

特に子育て中は、毎日洗濯しなければならないものが出ます。一日も休めないと言っているでしょう。上記のそれぞれの項目は、この洗濯のように、それぞれ一連の作業の総体としての項目であることを念頭に置いて以下の表を見ていきましょう。

次の表は、「家事の組み合わせ（末尾のハイライトした数字は行った家事の項目数）」を表にしたものです（表B-13-2）。

表B-13-2 家事の組み合わせ（末尾の数字は行った家事の項目数 問14より）

a. 掃除・献立作成と食事づくり, b. 食器洗い・片付け, c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）, e. ゴミ捨て 4	1
a. 掃除・献立作成と食事づくり, b. 食器洗い・片付け, c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）, d. 洗濯 4	4
a. 掃除・献立作成と食事づくり, b. 食器洗い・片付け, c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）, d. 洗濯, e. ゴミ捨て 5	12
a. 掃除・献立作成と食事づくり, b. 食器洗い・片付け, c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）, d. 洗濯, e. ゴミ捨て, f. 銀行・役所・支払いなどの手続き 5	29
a. 掃除・献立作成と食事づくり, b. 食器洗い・片付け, c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）, d. 洗濯, e. ゴミ捨て, f. 銀行・役所・支払いなどの手続き, g. その他 7	7
a. 掃除・献立作成と食事づくり, b. 食器洗い・片付け, c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）, d. 洗濯, e. ゴミ捨て, g. その他 6	3
a. 掃除・献立作成と食事づくり, b. 食器洗い・片付け, c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）, d. 洗濯, f. 銀行・役所・支払いなどの手続き 5	8
a. 掃除・献立作成と食事づくり, b. 食器洗い・片付け, c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）, d. 洗濯, f. 銀行・役所・支払いなどの手続き, g. その他 6	2
a. 掃除・献立作成と食事づくり, b. 食器洗い・片付け, c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）, d. 洗濯, g. その他 5	1

以上の組み合わせで特徴的なことは、最初の行を除く残り全ての行でaからdまでが入っていることです。また、aからcまでは全ての行に入っています。また、ほとんどの人が最低5項目以上の家事をこなしていることが分かります。回答者の中には、このあとのセクション「2-4. 家事・育児以外の仕事」で見ると、家事・育児以外の仕事をしている27人の方も含まれています。

次の表は、問 16「パートナーがいる方は、この 1 週間でパートナーがやったすべての家事にチェックをしてください」の結果を表にしたものです（表 B-15-1）。

表 B-15-1【問 16】パートナーがいる方は、この 1 週間でパートナーがやったすべての家事にチェックをしてください。（複数回答可）

a. 掃除，献立作成と食事づくり	35
b. 食器洗い・片付け	29
c. 食材や日用品の買い物（在庫管理含む）	25
d. 洗濯	21
e. ゴミ捨て	45
f. 銀行・役所・支払いなどの手続き	8
g. その他	2

表 B-13-1 と比べてみると、生活している限りは必ず発生する a から d まではかなりの方が行っている様子がうかがえます。

特徴的なのは、e の「ゴミ捨て」が突出して多いことです。しかしこの表だけからは、この「ゴミ捨て」が「ゴミ捨て」のどの部分をやっているのかは分かりません。

他の家事の項目と同じように、「ゴミ捨て」も、台所のシンクの生ごみを生ごみ処理用の小さなプラスチック袋に入れる、それを地方自治体指定の「燃えるゴミ」用のゴミ袋に入れる（分別回収している自治体では）、各部屋にあるゴミ箱から同じようにゴミを集めてゴミ袋に入れる、プラスチック製品のゴミは別に集める、ゴミ回収の日には、回収場所に出せるようにゴミ袋の口を縛って玄関（あるいは勝手口）に置いておく、考え付くだけでもこれだけの作業があります。もちろん、洗濯と同じように、ゴミ袋を切らさないように買って置く、ゴミの種類ごとの回収日を確認するなど、ゴミを捨てるための条件を整える作業もあります。

例えば玄関に置いてあるゴミ袋を回収場所までもっていくという作業は、単にそれだけでは「ゴミ捨て」という家事の一部にすぎません。家事を分担しているか、あるいは単にその一部を補助しているだけかは、このように家事の中身を細かく見ていくと分かれてきます。このことも念頭に置いて次を見ていきましょう。

次の表はパートナーがこなした家事の項目数です（表 B-15-2）。

表 B-15-2 パートナーがこなした家事の項目数（問 16 より）

6 項目	3
5 項目	13
4 項目	11
3 項目	13
2 項目	6
1 項目	6

この表で見える限り、妻のところでは皆無だった 1 項目、2 項目、3 項目のところにも数字が入り、これだけで全体の半分近くを占めていることが分かります。

では、次の表で妻と夫のこなす家事の比較をしてみましょう（表 B-15-6）。

表 B-15-6 【問 16】妻と夫、家事の比較

	妻	夫	項目別の妻に対する夫の家事の割合
a. 掃除・献立作成と食事づくり	68	35	51%
b. 食器洗い・片付け	68	29	43%
c. 食材や日用品の買い物(在庫管理含む)	68	25	37%
d. 洗濯	66	21	32%
e. ゴミ捨て	53	45	85%
f. 銀行・役所・支払いなどの手続き	46	8	17%
g. その他	13	2	15%

ハイライトされた部分は、夫が妻の 20 パーセント以下しか負担していない項目です。次の表は、同じく妻と夫の負担した家事の項目数を比較したものです（表 B-15-7）。

表 B-15-7 妻と夫の負担した家事の項目数の比較（問 14 と問 16 より）

	妻	夫
7 項目	3	0
6 項目	5	3
5 項目	50	13
4 項目	5	11
3 項目	0	13
2 項目	0	6
1 項目	0	6

5 項目以上の比較では、夫は妻の 27% しか家事をしていないことが分かります。以上の表を見て分かることは、総じて、銀行、役所などウィークデーしか開いていないところでの用事の夫の負担が妻に比べて極端に低いこと、ゴミ捨てのように出勤時に玄関を出てすぐに行けることが突出して多いこと、こなす家事の項目数が妻に比べて際立って少ないことなど、夫が負担する家事はウィークエンドに補助的に行う程度のことだということがうかがえます。

今度は育児について、同じように妻と夫の負担を比較してみましょう。

表 B-14-1 は、問 15「この 1 週間であなたがやったすべての育児にチェックしてください」の結果を表にしたものです。

表 B-14-1 【問 15】この 1 週間であなたがやったすべての育児にチェックしてください（複数回答可）

a. 着替え（オムツ替え）	67
b. 子ども用の洗濯	66
c. 子ども用品の在庫管理	60
d. 子ども用品の買い物	64
e. 子どもと遊ぶ	67

f. 寝かしつけ	66
g. お風呂に入れる（沐浴）	67
h. ご飯づくり	66
i. ごはんを食べさせる	66
j. 幼稚園/保育所等の 送迎	34
k. 幼稚園/保育所等の連絡	29
l. その他	7

育児も家事と同じように、毎日同じことの繰り返しです。別の言い方をすれば、育児とはその作業内容を見る限りは、家事のなかで「子どものために特化した作業」だということです。子どもを育てるとは、まさに毎日のこのような作業の積み重ねの上に成り立つことだということが分かります。上記の表の a、b、c、d、f、g、h、i は、一日たりとも休むことのできない作業だと言えます。

次の表は、いくつかの項目を担っているかを表にしたものです（表 B-14-4）。

表 B-14-4 育児の項目数（問 15 より）

12 項目	4
11 項目	23
10 項目	9
9 項目	27
8 項目	3
7 項目	1
6 項目	1

これを見ると、家事の項目の表と比べて格段に項目数が増えている、回答した方のほぼ全員と言っていい方たちが 9 項目以上をこなしています。それだけ、育児は手がかかるということが言えます。

次の表は、問 17「パートナーがいる方は、この 1 週間であなたのパートナーがやったすべての育児にチェックをしてください」の結果を表にしたものです（表 B-16-1）。

表 B-16-1 【問 17】パートナーがいる方は、この 1 週間であなたのパートナーがやったすべての育児にチェックをしてください（複数回答可）

a. 着替え（オムツ替え）	62
b. 子ども用の洗濯	29
c. 子ども用品の在庫管理	11
e. 子どもと遊ぶ	78
f. 寝かしつけ	36
g. お風呂に入れる（沐浴）	71
h. ご飯づくり	17

i. ごはんを食べさせる	55
j. 幼稚園/保育所等の送迎	17
k. 幼稚園/保育所等の連絡	4
l. その他	4

これを見ると、家事の項目の時と比べて、項目によっては数字が突出しているものがあることが分かります。「着替え（オムツ替え）」、「子どもと遊ぶ」、「お風呂に入れる（沐浴）」、「ごはんを食べさせる」など、いかにも「イクメン」パパの面目躍如といった項目が数字を集めています。

これも、それぞれの作業に付随する作業をこなしたうえでの数字なら問題ありませんが、そうでないなら育児を分担するというより補助的な役割を果たしているということになります。

次に夫が担った育児の項目数を見てみましょう（表 B-16-3）。

表 B-16-3 夫が担った育児の項目数（問 17 より）

10 項目	2
9 項目	3
8 項目	3
7 項目	6
6 項目	9
5 項目	17
4 項目	14
3 項目	15
2 項目	4
1 項目	3

これを見ると、6 項目以上と 5 項目以下の数字に際立った差があることが分かります。これを妻の負担する項目と比較してみるとその違いがよくわかります（表 B-16-2）。

表 B-16-2 同じ項目に対する妻と夫の比較（問 15 と問 17 より）

	妻	夫	項目別の妻に対する夫の育児の割合
a. 着替え（オムツ替え）	67	62	93%
b. 子ども用の洗濯	66	29	44%
c. 子ども用品の在庫管理	60	11	18%
d. 子ども用品の買い物	64	0	0%
e. 子どもと遊ぶ	67	78	116%
f. 寝かしつけ	66	36	55%
g. お風呂に入れる（沐浴）	67	71	106%

h. ご飯づくり	66	17	26%
i. ごはんを食べさせる	66	55	83%
j. 幼稚園/保育所等の送迎	34	17	50%
k. 幼稚園/保育所等の連絡	29	4	14%
l. その他	7	4	57%

この比較表を見ると、全部で6項目、夫の負担が妻の負担の50パーセント以下のものがあります。そのどれもが日常欠かせないものですが、特にパーセンテージが低いものを拾ってみると、「子ども用品の在庫管理」、「子ども用品の買い物」、「幼稚園/保育所等の連絡」があり、いずれも20パーセントを切っています。

特に「子ども用品の買い物」にいたっては全く負担されていません。「オムツ替え」は、オムツが買われていて初めてできることです。

「幼稚園/保育所等の連絡」は、子どもの体調、園での子どもの生活、成長に関する連絡がかなりの部分を占めますが、ここも「送迎」に比べると極端に数字が落ちています。

つまり子どもの成長にかかわる情報という肝心なところは妻任せとみなされるような結果となっています。ここでもいわゆる「縁の下の力持ち」的なことは、夫は全くやらないか、ほとんどやらないという実態が見えるようです。

次の表は、負担する項目数の比較です（表B-16-7）。

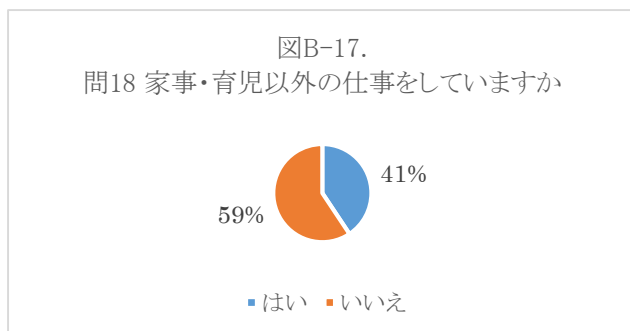
表B-16-7 妻と夫の項目数比較（問15と問17より）

	妻	夫
12項目	4	0
11項目	23	0
10項目	9	2
9項目	27	3
8項目	3	3
7項目	1	6
6項目	1	9
5項目	0	17
4項目	0	14
3項目	0	15
2項目	0	4
1項目	0	3

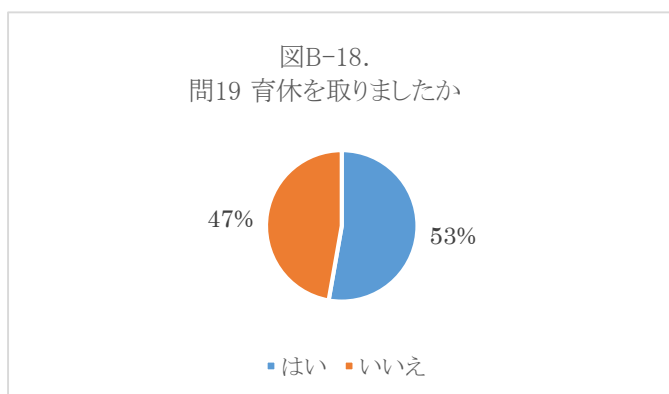
7項目以上が妻で98%、夫で18%、逆に6項目以下で妻が1%、夫が79%と、この表を見ても、育児においても夫の役割はあくまでも補助的なもの、基本的には「週末イクメン」だということが分かります。

2-4. 家事・育児以外の仕事について（問 18 から問 20 まで）

次の図は、家事・育児以外の仕事をしているかを尋ねたものです（図 B-17）。

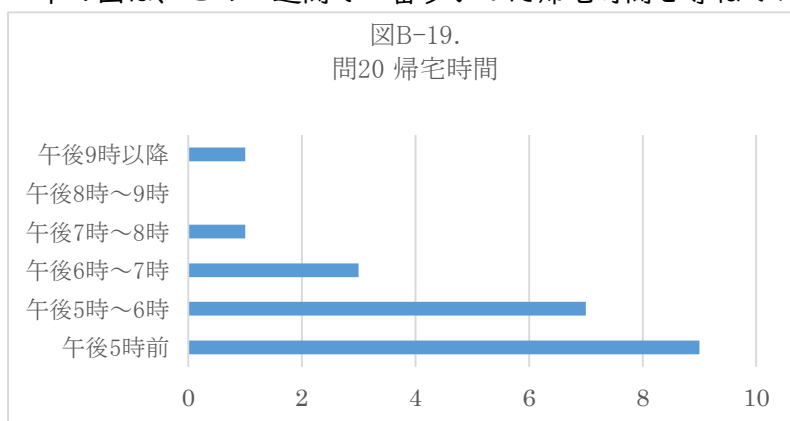


結果を見ると、約4割の回答者が家事・育児以外の仕事をしていることが分かります。次の図は、問18「家事・育児以外の仕事をしていますか」で、「はい」と答えた方に育児休暇を取得したかどうかを尋ねたものです（図 B-18）。



結果を見ると、5割強の方が育児休暇を取っています。

下の図は、この一週間で一番多かった帰宅時間を尋ねています（図 B-19）。



この問いに対して回答があったのが21人、うち16人は午後6時までに仕事を終えています。ただし、買い物をしたり夕飯の支度をしたりする家事は、それ以降に行っていることとなります。

2-5. 子連れの外出について（問 21 から問 23 まで）

次の表は、問 21「この 3 週間の中に、子連れで外出しましたか」への回答です（表 B-20）。

表 B-20【問 21】 この 3 週間の中に、子連れで外出しましたか

はい	79
空白	2

同じく次の表はその回数を尋ねています（表 B-21）。

表 B-21【問 22】 何回くらいですか（問 21 で「はい」の方）

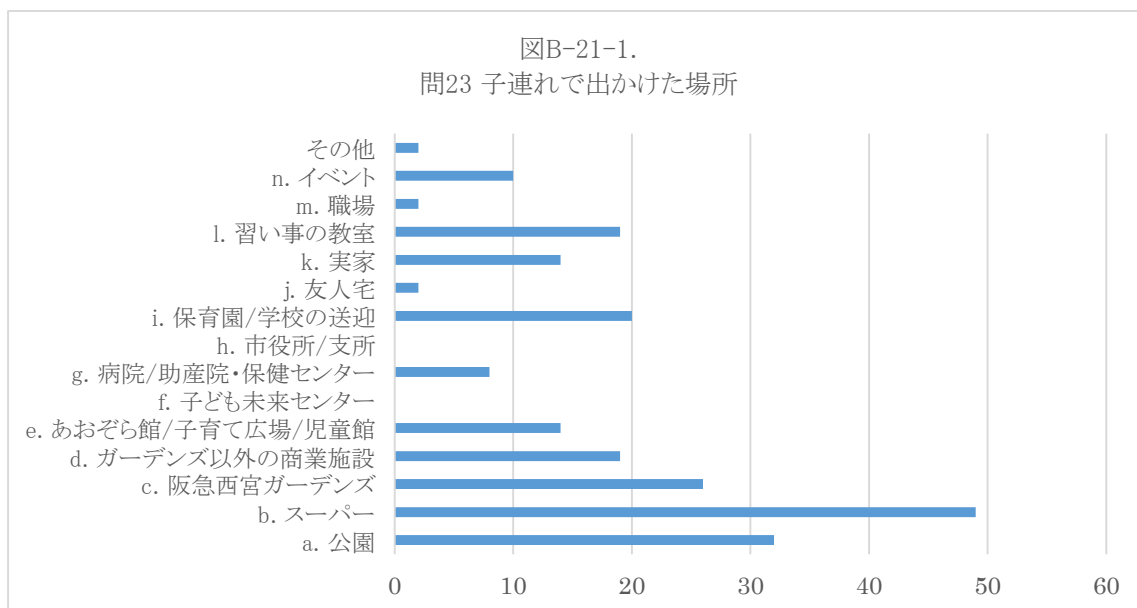
1 回	1
2～3 回	7
4 回以上	71

以上 2 つの表から分かるのは、回答者のほぼ全員が週に 1 度以上、子連れで外出しているということです。

次の問 23 では「どこに外出したか」を尋ねています（表 B-22-1、図 B-21-1）。

表 B-22-1【問 23】 外出した場所はどこですか（問 21 で「はい」の方）
（複数ある方は、回数の多いものを最大 3 つ選んでください）

a. 公園	32
b. スーパー	49
c. 阪急西宮ガーデンズ	26
d. ガーデンス以外の商業施設	19
e. あおぞら館/子育て広場/児童館	14
f. 子ども未来センター	0
g. 病院/助産院・保健センター	8
h. 市役所/支所	0
i. 保育園/学校の送迎	20
j. 友人宅	2
k. 実家	14
l. 習い事の教室	19
m. 職場	2
n. イベント	10
その他	2



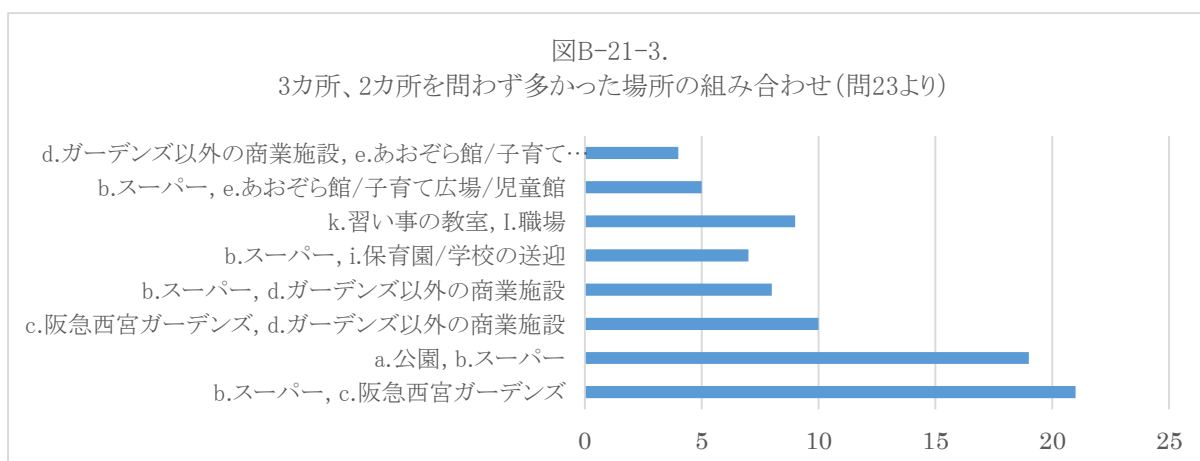
以上を見ると、スーパーなどの商業施設が回答総数の約4割強、同じく子どものための外出（公園、保育園などの送迎など）が4割強となっています。

次に、出かけた場所の数を見てみましょう（表B-22-2）。

表B-22-2 出かけた場所の数（問23より）

1カ所	2
2カ所	10
3カ所	69

ご覧の通り、3カ所という回答が他を圧して多かったという結果が出ました。



やはり、いずれの組み合わせにも必ずスーパーなどの商業施設が入っています。子どものための外出と家事のための外出が組み合わさっているのが、典型的な子連れの外出のパターンだと言えます。

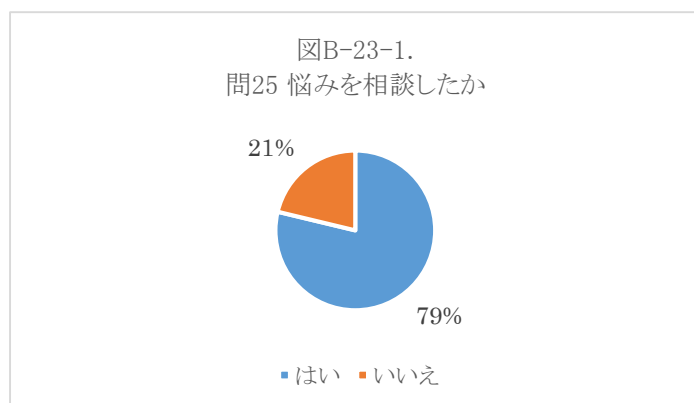
2-6. 妊娠・出産・育児の情報源や相談相手や内容について（問 24 から問 29 まで）

問 24 は「育児についての情報を得ているインターネットのサイトはどこですか」というものです。先に、産前の方たちが講座の情報をどこで得ているかというところでも見ましたが（1-5）、意外なほどインターネットという情報源は使われていませんでした。ここでも、特定のサイトを挙げた人は、わずか 17 人とどまります（表 B-23-1）。

表 B-23-1 【問 24】あなたが育児についての情報を得ているインターネットのサイトはどこですか

特になし	19
空白	37
5 チャンネル	1
MIND	2
Twitter	2
アカイク	2
ウィメンズパーク	2
コノピー	2
Google 検索	2
フェイスブック	2
ベビータウン	1
ママナル	1
ママリ	4
みやたん HP	1
みやハグ	1

問 25 の「産後(妊娠中)に、自分の心と体の悩みを誰かに相談したことがありますか」には、約 8 割の方が「はい」と答えています(図 B-23-1)。

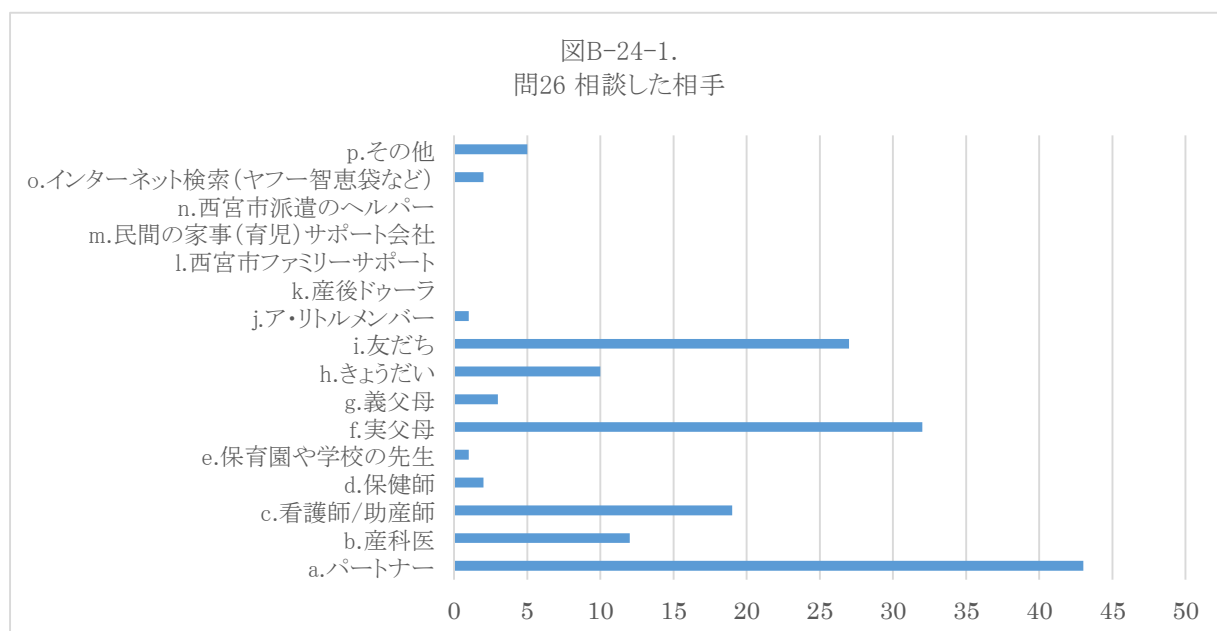


問 25 で「はい」と答えている方のほとんどが、妊娠中と産後の両方で相談しています（表 B-24-2）。

表 B-24-2 【問 25】 「はい」の内訳

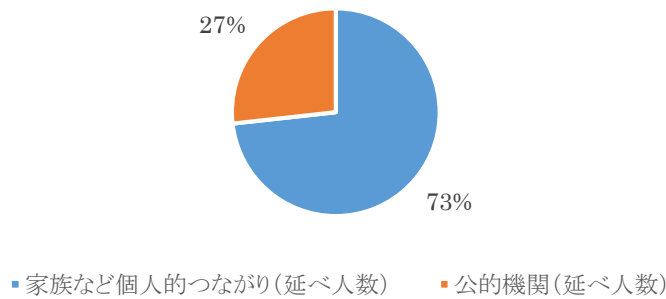
妊娠中だけ	1
産後だけ	8
妊娠中も産後も	54

では、問 26 の「誰に相談したか」という問いに対して、そのようなことに対してある程度専門的なアドバイスをできる相談相手は、回答の選択肢としては「産科医」、「看護師・助産師」、「保健師」があがっています。しかし、その回答数は合計しても 20 以下で、複数回答ですから、一人で上記の専門職の複数人に相談したケースもあると想定すると、十数人ほどしか専門職には相談していないということになります(図 B-24-1)。

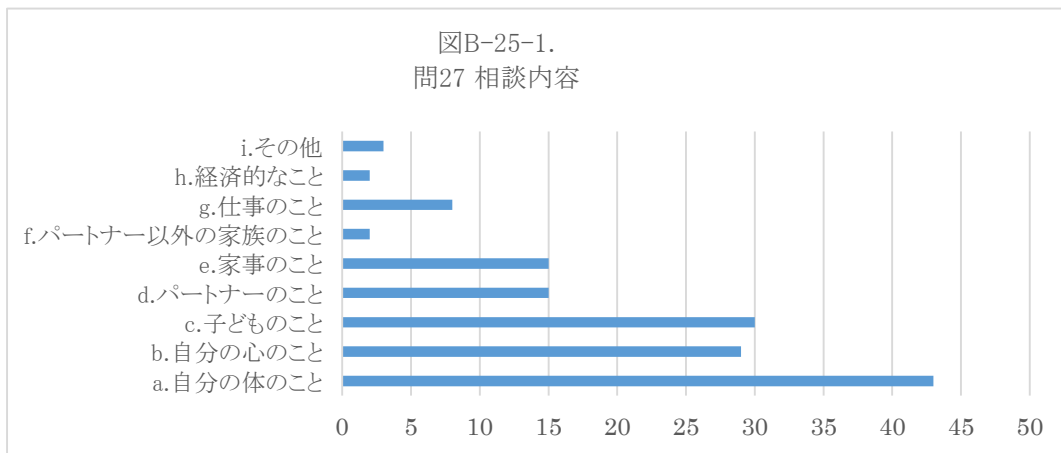


また、相談相手は、実に 7 割強がパートナー、実母、友人などの個人的なつながりで、公的な機関は 3 割弱にとどまっています。

図B-24-2.
相談した相手:個人的なつながりと公的機関の割合(問26より)

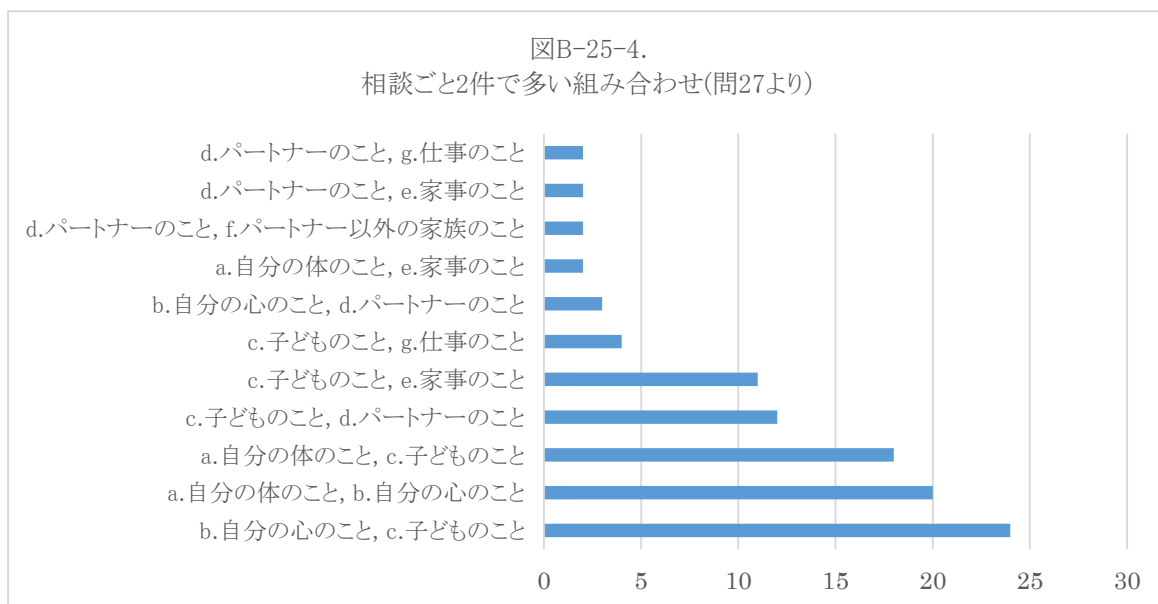


次の図は、相談内容の数を示す棒グラフです(図B-25-1)。

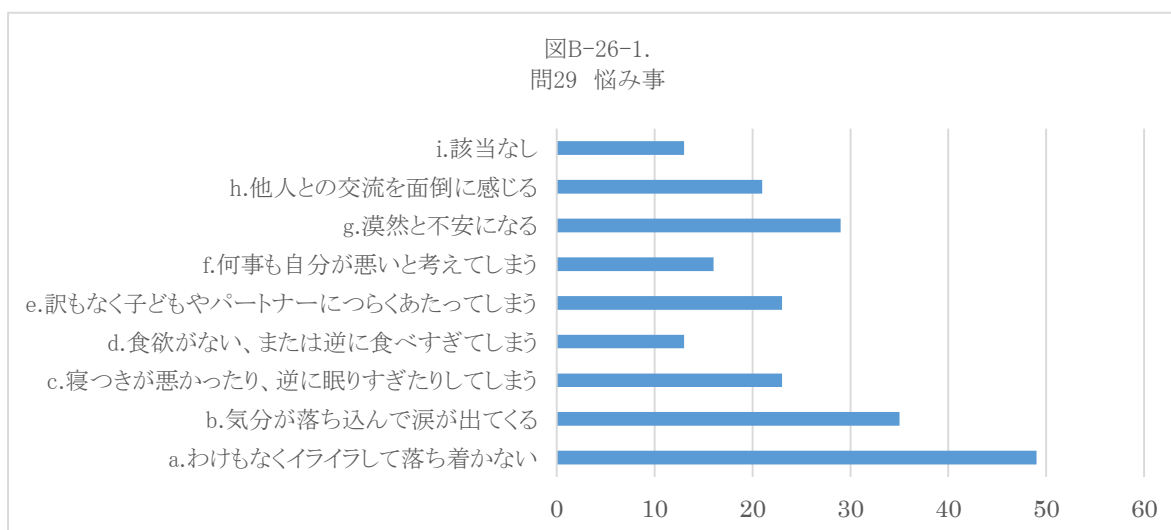


ここでもと産前の方へのアンケート結果(1-5)同様に「自分の体のこと」、「自分の心のこと」が、群を抜いて多く、それに「子どものこと」が加わっています。産後の大変な時期に何らかの体の不調を感じながら、さらに育児にも悩む姿が見えます。

この傾向は下の図にもはっきりと表れています。相談ごとの組み合わせのトップ3は、「自分の心のこと、子どものこと」、「自分の体のこと、自分の心のこと」、「自分の体のこと、子どものこと」です。また、ほかに目立つのが、「パートナーのこと」というのが、組み合わせ総数の半分近く出てくることです(図B-25-4)。

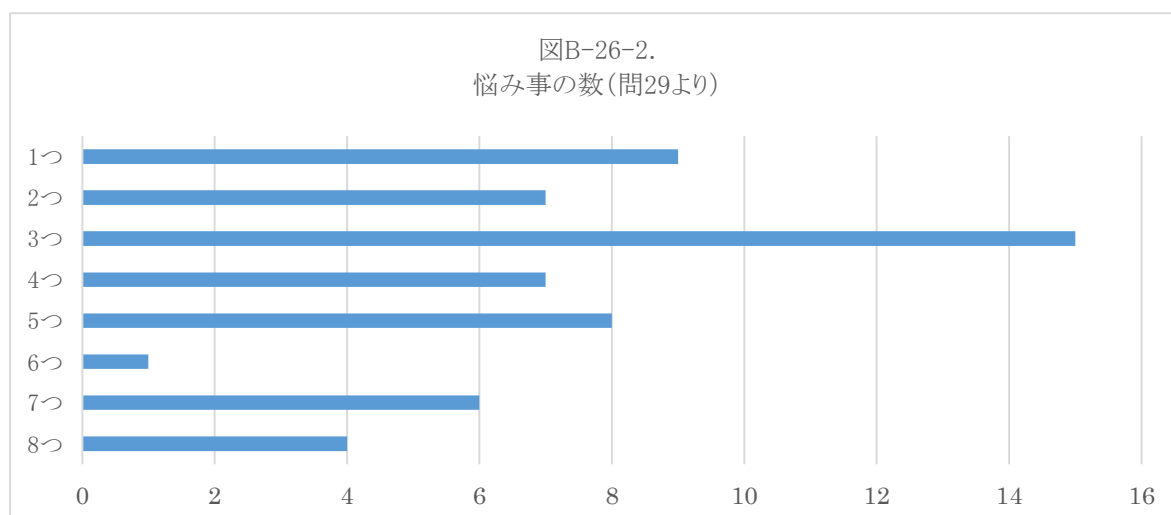


では、心が具体的に「どんな状態になったか」を尋ねる問29、以下の表のような答えが返ってきています(図B-26-1)。



悩みごとの数については産前の方たちのところでも指摘しましたが(1-5)、このような症状を複数持っているとは産後鬱になる可能性がないとは言えません(図B-26-2)。

図B-26-2.
悩み事の数(問29より)



これも複数回答ですから、「気が沈んだり、気が重くなる」、「わけもなくイライラして家族にあたってしまう」、「朝が特に無気力」などが重なっていると、これ以上症状がひどくならない前に適切なアドバイスを受けて対処した方がよいと思われます。

実際に個別インタビューをした回答者からは、「産後1~3ヶ月が辛い」というコメントがありました。産後すぐは誰かのサポートがあることが多いですが、そのサポートがとぎれた時、ほとんどの人が辛さを経験しているということです。

産前の方たちのところ(1-5)でも指摘しましたが、「相談する人はいない」とは、そもそも「相談する人」に関する情報・知識がない、例えば「心療内科の先生に相談する」のような知識がない、あるいは、「相談する」という発想そのものがない、と考えられます。このような方にどのようなアプローチをすれば、必要なサポートを受けてもらえるかという点が、課題となります。

2-7. パートナーとの関係について (問30から問31まで)

次の表は、問30「一番最近パートナーと15分以上話しをしたのはいつですか」に対する回答です(表B-29)。産前の方の時と同じ結果が出ました。明らかにパートナーとのコミュニケーションが不足している状態です。

表B-29【問30】一番最近パートナーと15分以上話しをしたのはいつですか。

a. 今日	20
b. 昨日	33
c. 1週間くらい前	15
d. 1カ月以内でどこか	6
e. 1カ月から5カ月以内でどこか	2
f. 半年以上前	0
g. 1年以上前	1
h. いつか覚えていない	3

i. LINE や SNS でのやりとりのみ（電話や対面なし）	0
---------------------------------	---

次に、何を話題にしているかというのが、問 31 への回答です（表 B-30-1）。

表 B-30-1 【問 31】産後に、パートナーと次のことを話し合ったことがありますか（複数回答可）

a. 妊娠中の心と体の変化について	44
b. 出産準備（買い物など）について	67
c. 産後の家事・育児について	59
d. お金のこと	58
e. 将来の家族像について	41
f. 産後の仕事について	40
g. 子どもの預け先（保育所など）について	40
h. 自分の時間の持ち方について	29
i. その他	7

個別インタビューで、「相談というよりも報告、連絡」とコメントされた方がいましたが、切実な問題も、パートナーとのコミュニケーションがこれほど少ないと、大方は一人で抱え込まなければいけないということになります。

次の表は、一体、いくつの話題をパートナーと話しているかをまとめたものです（表 B-30-2）。

表 B-30-2 パートナーとの話題の数（問 31 より）

9つ	2
8つ	9
7つ	12
6つ	14
5つ	14
4つ	9
3つ	9
2つ	4
1つ	7
空白	1

この表で示された結果を見る限り、前の表（表 B-30-1）であがった項目の半分以上を話題にしている方が 6 割強いるのは幸いなことです。願わくば、それが実質的な会話となり、解決へとつながっていくことです。

3. 個別インタビューで作成した2つの地図

地図を通して分かったポイント

- ◆ 産前や産後に頼った人の7割は、自宅から半径1.5キロ以内にいる人でした。

アンケートにお答えいただいた104人のうち、59人に個別インタビューを行いました(産前の方が9人、0~3歳の子どもがいる方が50人)、インタビューを通じて、二つの地図を作成しました。

6人の調査員が各自、西宮市の白地図と色付きのシールを使って、調査協力者にインタビューをしました。訪れた場所、相談や家事・育児のサポートを頼んだ人のいる場所などを伺い、その場所に各色のシールを貼っていきました。インタビュー終了後、各調査員がそれぞれ地図を持ち寄り、「場所の地図」、「つながりの地図」の二つの地図にまとめた結果は、次の通りです。

3-1. 場所の地図

場所の地図では、調査協力者の自宅(自宅のある町名)、妊娠・出産・育児に関する講座で訪れた場所、自分が通っている(いた)助産院や産院、職場や実家、外出先で不安や危険を感じたことのある場所を伺い、色別にシールを貼ってもらいました。シールは、全部で11色です(表C-1)。

特に0~3歳の子どもがいる方には、直近の3週間のうちに子連れで外出した場所にもシールを貼ってもらいました。

表 C-1 訪れた場所と回数

シールの色	場所	シールの数
●	スーパー・商業施設	51
●	病院・産院	41
●	行政の施設	33
●	友人・知人の家	29
●	公園	23
●	保育園/幼稚園	20
★	NPO・ボランティアグループ	5
●	実家	1
●	職場	14
●	外出先で危険や不安を感じた場所	23
●	調査協力者自宅	59

インタビューを担当した6人の調査員の自宅周辺の人たちが回答者となっており、西宮市南西から北東地域が、59人の行動範囲となっていました。インタビュー対象者の自宅を小学校区別にみると、調査員のうち4人が暮らす地区である香櫨園(11人)、高木(7人)、樋

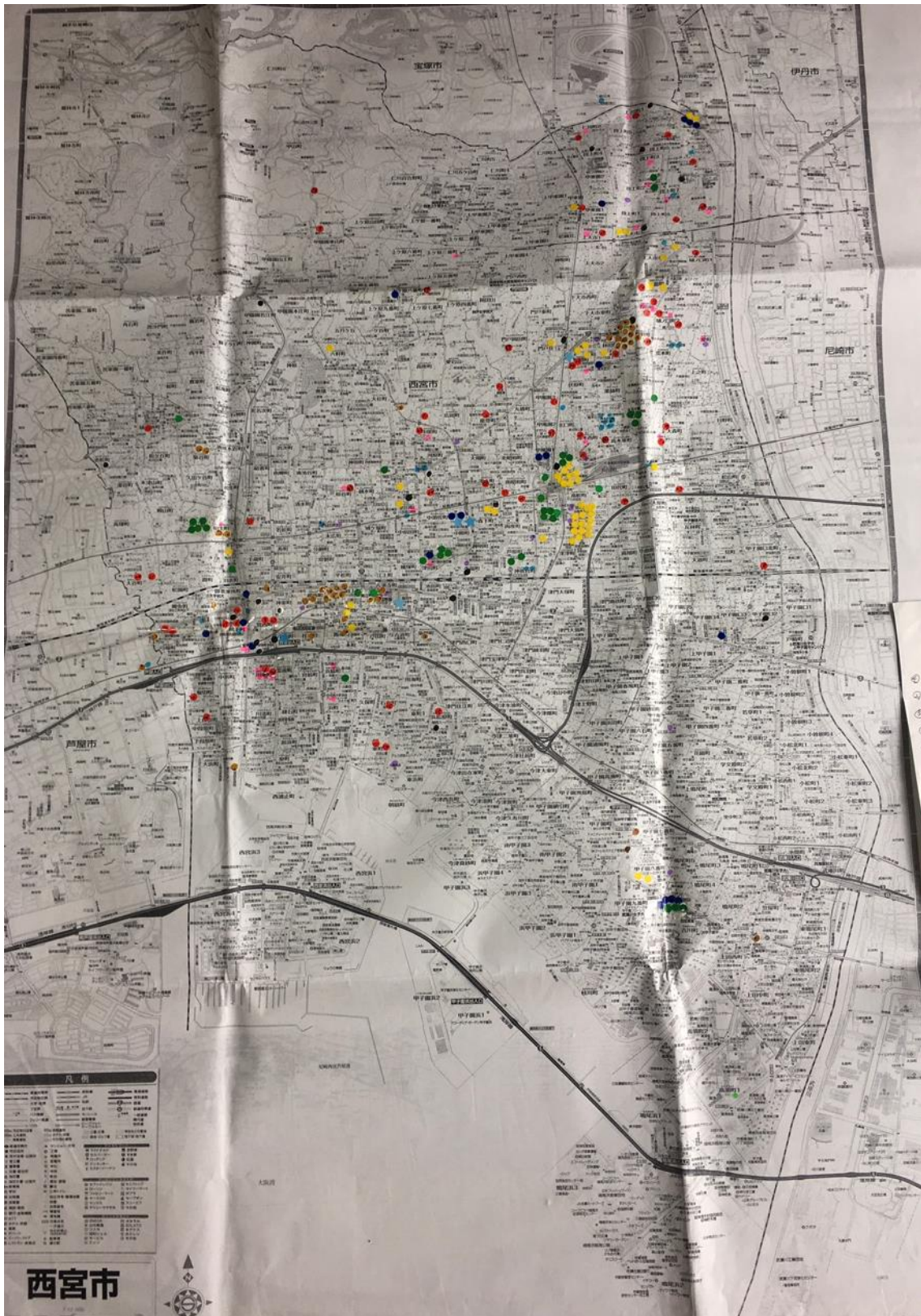
ノロ（6人）の校区が多くなっていました。（表 C-1-2）。

表 C-1-2. 小学校区別の自宅の位置 （単位：人）

香櫨園	11
高木	7
樋ノ口	6
用海	4
段上	4
瓦木	4
平木	4
広田	3
甲東	3
高木北	3
甲陽園	2
夙川	2
上ヶ原、上ヶ原南、 北夙川、大社、段上 西、安井の校区は各 1人	6

産前の方や、3歳までの子どもがいる方の訪れた場所から分かることは、自宅付近のスーパー、産院、阪急電車、阪神電車、JRの各線の駅から徒歩圏内にある場所への移動が多いことです。おそらく、アクセスがよく、またインフラの面からもベビーカーが使える、授乳室があるなど、使い勝手のよい場所が多いことが伺えます。産前の方および0～3歳の子どもがいる方たちへの情報発信の場所として、また講座やイベントの開催場所として、これらの地域が適していると言えるでしょう。

<場所の地図>



3-2. つながりの地図

続いて「つながりの地図」では、産前の方と0～3歳の子どもがいる方の自宅（赤シール）に番号をつけ、その人が家事や育児のサポートを頼んだり、心と体の悩みを相談した人（団体）に、黄色のシールに自宅と同じ番号を付けました（表C-2）。

表C-2 自宅とサポートを頼んだ人（団体）

シールの色	種別
●	サポートを頼んだ・心と体の悩みを相談した人（団体）
●	調査協力者自宅（1～60番*28番は欠番）

例えば、調査協力者1番の人には（自宅は1と書かれた赤色シール）、家事や育児のサポートを頼んだり、心と体の悩みを相談した人（団体）のいた場所に、1と書かれた黄色のシールが7つあります。1番の人には7人（団体）の家事や育児のサポートを頼んだり、心と体の悩みを相談した人がいた、ということを示しています。

59人のうち、市内には家事・育児サポートをしてもらったり、相談を頼める人（団体も含む）がいないと回答した人が8人。51人は、そういう人がいたと回答していました（表C-1-3）。

表C-1-3. 1人あたりの頼ったひとの数（単位：人）

0人	8
1人	23
2人	13
3人	6
4人	3
5人	0
6人	1
7人	3
8人	1
9人	1

このうち「頼れる人がいた」と回答した51人の1人あたりの頼れた人の平均人数は、わずか2.08人でした（表C-1-4）。

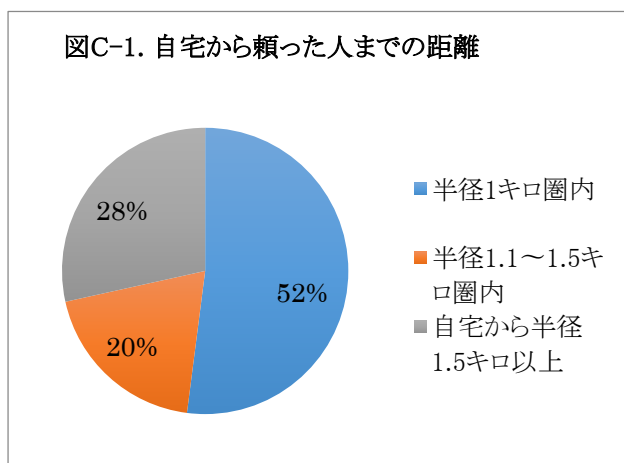
表C-1-4. 頼ったひとの数（単位：人）

51人が頼ったひとの数の合計	123
頼ったひとの数が最も多かったひと9人	1
頼ったひとの数が0人だった人	8
頼った人の数、平均	2.08
標準偏差	2.05

回答者の自宅を中心にみると、頼った人との距離は、半径1キロ内に64人、半径1.1から1.5キロ内に24人となっており、頼った人の72パーセントは、自宅から半径1.5キロの距離にいることが「つながりの地図」から分かりました(表C-1-5、図C-1)。

表C-1-5. 頼ったひとと自宅との距離 (単位：人)

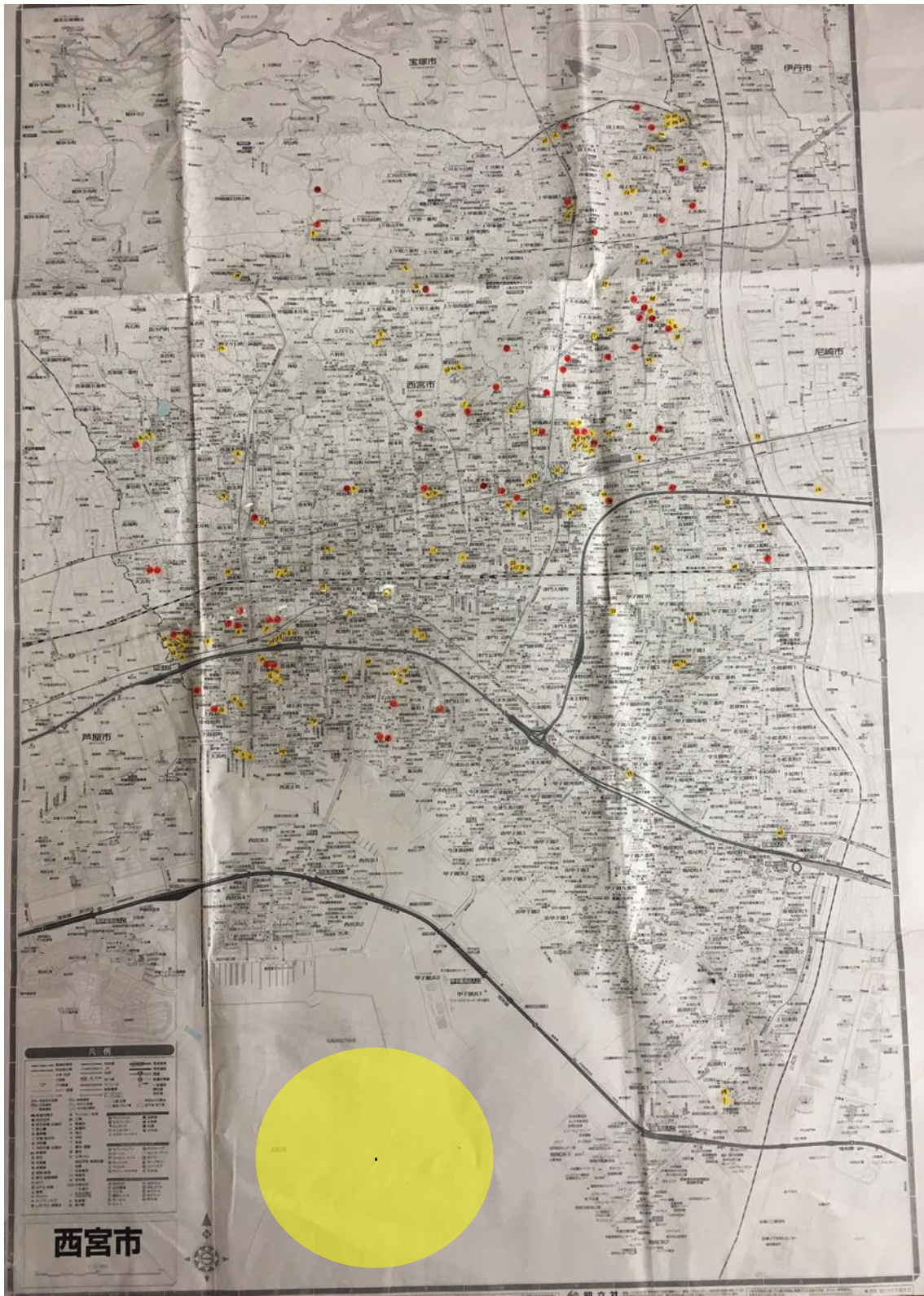
半径1キロ圏内	64
半径1.1～1.5キロ圏内	24
自宅から半径1.5キロ以上	35



出産後、ベビーカーを押しながら、徒歩で気軽に移動ができる距離が自宅から片道で1キロ以内でしょう。0歳から3歳くらいまでは、半径1キロから1.5キロ以内の距離が非常に大事な距離であることが明らかになりました。個別インタビューを通して、フルタイムで就業し、初産の方が、この圏内でのつながりが非常に希薄なことも明らかになりました。産前から半径1キロから1.5キロ以内のつながりを作る機会は非常に限られているのが現状です。

アンケート結果(1と2)から明らかなように、産後の育児と家事、それ以外の仕事に追われている方が大部分を占める現状で、産後すぐに半径1から1.5キロ圏内でのつながりを新たに作るエネルギーがないことは明白です。ならば産前の方たちや0から3歳までの子どもがいる方たちへの支援が、彼女/彼たちの自宅から半径1.5キロ以内の距離で実現できるような仕組みづくりが、産前から必要ということが明確な課題といえるでしょう。

<つながり地図>



※●は、半径1キロの円

4. 結論

これまでの調査結果の分析を通じて浮かび上がってきたのは、やはり一人で悪戦苦闘する女性の姿でした。まず、妊娠中、産後と、それなりに多くの関連講座があり、妊娠、出産、子育てに必要な知識を教えてくださいますが、何よりも講座で教えてくれることはいわば一般論であり、日々起こる体の変化、子どもの成長など日々刻々と起こる出来事、悩みにすべて答えてくれるものではありませんまた、講座で得た知識が、「その場でどうしよう」というときにとっさに思い出し、対処できる助けになることはほとんど皆無だと言っていいでしょう。これは、そのような知識が役に立たない、ということではなく、知識はそれを実際に使うための訓練をして、初めて実質的な役に立つということなのです。ですから、妊娠、出産、子育てに対する知識は、単にさまざまな講座を開催しただけでは十分とは言えません。その後のフォローをしっかりとる取り組みが必要だと思えます。

今から50年ほど前までは、家族3世代同居など当たり前のことでした。ですから、祖母から母、母から娘へとその場で手取り足取り教える、そのような実践的な子育ての知識に溢れていました。「女性は子育てができるもの」というのはそういう環境があってこそのものでした。しかし昭和30年代ごろの高度経済成長期に、産業構造の大きな変化に伴い、都市化が進み、団地の台頭とともに核家族化がはじまり、企業戦士の夫を家で支える専業主婦が普通のこととなってきました。まだ地域コミュニティの名残があったその頃は、ご近所の同世代の母親たちが、助け合って子育てをするという習慣も残っていました。

時が移り、今、家族3世代同居での子育てや地域コミュニティが消滅し、また女性にとって専業主婦以外の選択肢が開かれた時代になりました。しかし社会と価値観の変化に伴い生活スタイルも大きく変わり、個人の消費を基盤としたものになったのに、高度経済成長時代以来の「子育ては母親がするもの」という考え方だけは残り、子育てを母親だけが抱える「孤育て」の時代となりました。

母や祖母から子や孫へ、コミュニティからコミュニティへと伝達されてきたノウハウは、講座という形で提供されるようになりました。しかし、講座で教えてくれることは前述したとおり一般論であり、日々刻々と起こる出来事、悩みに臨機応変に答えてくれるものではありません。妊娠、出産、子育てに対する知識は、講座を開催しただけでは十分とは言えません。その後のフォローをしっかりとる取り組みが伴って初めて、講座での学びを実際の出産や子育てに活かすことができるという点を、講座を主催する側は十分に理解する必要があります。その点、今までの出産・育児に関する一般的な講座とは別に、どのような講座やサポートが行政、民間を問わず提供されていて、それはどのようなときに、どのようなプロセスを経て利用できるのか、そのことをしっかりとオリエンテーションする講座を提供したり、日常的にそのような知識を提供するサービスを充実させることが、西宮での子育ての場に、今後益々必要不可欠なものとなっていくと考えられます。

次に一人で子育てと家事を担い、産後のわずかな期間だけ実母の助けを借りるというのが、この調査で確認できた現状です。しかし、調査対象となった方たちの年齢、20代、30代、40代の親は50代、60代、70代でしょう。そして、この年齢の女性たちは、自身の仕事や介護で四苦八苦している可能性が大きいのです。ですから、産後しばらくは娘のサポートができて、それ以降ずっとサポートし続けるのは実母といえども難しいといえます。ですから、個別インタビューで「産後すぐの頃は誰かのサポートがあったが、サポートが途切れた頃、

ほとんど多くの方が辛さを経験している」とコメントされているような状況に、文字通り「ほとんど多くの方が」陥っていると想定されます。

一方で、サポートを必要とする多くの方が、行政、民間が提供する公的なサポートを求めることを躊躇している現状も明らかになりました。それには様々な要因があり、ここではこの報告書の範疇を超えるので触れませんが、提供する側は「利用するのを躊躇してしまう」人が、いかに精神的負担なく、気軽に使えるようにするにはどうしたらいいか、もうひと工夫したアピールをしていく必要があります。

父親たちは、家事、育児にそれなりの貢献をしていることが、この調査でも見えました。貢献というより、家事、育児に参加することがようやく端緒についているところでしょうか。父親が家事、育児を「分担する」というよりも、「その一端を補助する」という表現の方が適切といえるでしょう。週末に家事を手伝い、ウィークデーはゴミ出しをし、子どもをお風呂に入れたりする、そんな「イクメン」パパの姿がこの調査から浮かび上がりました。

父親が家事、育児を「主体的に行う」ようになるには、妻、夫双方の努力がまだまだ必要です。なによりも、夫はこれまで家事の担い手としての訓練を受けていません。これは、夫が育った家庭環境、受けた教育や社会から期待される男性像が大きく影響します。

さらには、夫の働き方、あるいは働かされ方も、夫の家事、育児への参加を左右する大きな要素です。朝早く出勤し、夜遅く帰宅するというのが恒常化しているような働き方は、妻と夫のコミュニケーションを阻害する要因となります。このことも、この調査の範疇を超えるのでこれ以上触れませんが、夫と分担すべき家事、育児の現状の背景にはこういう状況があることも理解しておく必要があると言えます。

この調査で明らかになったことは、回答者たちは「サポートを必要としている」ということです。

本調査は、「調査の目的」のところでも述べたように、（西宮で）みんなで「助け合う子育て」実現への道しるべ、となるよう、西宮で産前、産後を迎えた方たちの現状を調査したものです。しかし調査を実際に行ってみると、調査を始める前の私たちは、「助け合う」という言葉を安易に使っていたことに気づかされました。「助け合う」は、文字通り、助けたり、助けられたり、することです。しかし、この調査で、現在の子育て中の夫婦には身近に「助け合える環境」がないことが分かりました。助けてくれる人さえおらず、孤独に子育てを行っているのです。誰かを「助ける」ことも、誰かに「助けを求める」方法もわからず、今このとき「助けを必要としている」という女性たちの声なき声をたくさん聞き、彼女たちに「助け合う子育て」を求めるということはさらなる負担を与えかねないということも理解できました。

西宮で出産をし、子育てをする家族が快適に暮らせるよう、行政も民間も様々なサービスを提供しています。ただ、それらのサービスも利用されなければならないのも同然です。もっと利用してもらえ、もっと使い勝手のいいものにする、そしてそのようなサービスが、利用者の生活圏にある、そんな状態を作り上げるためには、提供者である行政も民間企業・団体もさらなる工夫が必要ですし、利用者が自らサポートを受け入れることができるよう社会の意識や環境を変化させる働きかけが必要だということがわかった調査結果となりました。

謝 辞

はじめに、本調査にご協力いただいた104人の皆さまに心よりお礼申し上げます。子育て、家事、仕事などのマルチタスクを、分刻みでこなしておられる皆さまの貴重なお時間をいただき、30問近くもあるアンケート票にお答えいただきました。なかでも59人の方には、40分から1時間にもおよぶインタビューにお付き合いいただき、アンケートや地図づくりにご協力いただいたこと、本当に感謝しております。ムラのミライとa littleは、104人の皆さまからいただいたこの貴重な声を活かし、今後の西宮での活動を続けていきたいと思っております。

またこの調査は、59人の方への個別インタビューを担当してくださった6人の調査員のご尽力なくしては実現しませんでした。調査員の皆さまには、事実を聞く質問をベースにしたムラのミライのメタファシリテーション手法を用いた調査準備研修に何度もご参加いただきました。

「〇〇の問題は何だと思えますか?」「〇〇はどうですか?」「なぜ〇〇なのですか?」といった相手の思い込みを誘発してしまうような質問によるインタビューではなく、回答者の皆さまに、実際にあった産前・産後の様々な事実を思い出していただくインタビューが実現しました。調査員の皆さまのご尽力のおかげで、西宮で産前・産後を迎える(迎えた)方たちの現状が、事実を中心にリアルに浮かび上がるという、貴重な調査報告書となりました。

本報告書が、104人の皆さまのお声として、一人でも多くの子育て支援にあたる方、子育て中の方たちに届き、西宮で、そして各地で、みんなで助け合う子育て実現の道しるべとなることを願ってやみません。

最後に、本調査をご支援いただいたジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの皆さまに心より感謝申し上げます。少しでも多くの方が調査にご協力いただけるようにと、いただいた数々のご助言、ご助力は、とても心強く、私たちが調査報告書の完成まで導いてくださいました。

2019年3月

認定NPO法人ムラのミライ & a little
「西宮で迎える産前・産後」調査チーム

＜添付資料＞

「西宮で迎える産前・産後」調査報告

- (1) 産前の方へのアンケート票
- (2) 0～3歳の子どもがいる方のアンケート票

各問の結果はこちらのサイトにありますエクセルデータをご覧ください。<http://muranomirai.org/kosodate2018>

(1) 産前の方へのアンケート票

インタビュー実施日：2018年 月 日 () 回答者：ア・リトル会員・非会員

インターネット入力：本人が入力済・調査員が入力した日 (月 日) 調査員①：_____

協力者ギフト：バンドエイド・綿棒・a little クーポン (必ずチェックしてください)

部分が個別インタビュー項目案です。

「あなたについて教えてください」*下記1から9は必ず聞いてください。

1. 性別：女・男・その他
2. 年齢：10代・20代・30代・40代・50代・60代以上
3. 出身：西宮市のご出身ですか？：はい・いいえ
4. 西宮市にいられてどのくらいですか？：3ヶ月以内・半年以内・1年以内・1年～3年のあいだ・3年～4年のあいだ・5年以上・西宮市外在住なので該当しない
5. **3.が「はい」の方、お住まいの地域を教えてください**：塩瀬・山口・仁川&甲東園・樋ノロ・西宮北口・上甲子園・鳴尾・甲陽園&苦楽園・上ヶ原・夙川・香櫨園・本庁周辺・浜脇・西宮浜・地区がわからない：(町名) . 西宮市外

地図①&②：地図①&②町名（もしくは一番近くの目印となる場所）を聞いた後、町名近くに、地図①なら赤のシールに番号を書いて貼り、シール横に☆マークを記入。地図②ならインタビュー協力者の色のシールを貼り、シール横☆マークを記入。

6. **一緒にお住まいの方を教えてください**：パートナー・子ども（乳幼児）・子ども（小学生以上）・子ども（中学生）・子ども（高校生以上）・**その他（記入例：義父母）** _____
 - 6-1. **子どもの人数は何人ですか** () 人
 - 6-2. **6に挙げた方のなかで、介護が必要な方はいますか**？：はい・いいえ
 - 6-3. **6-2で「はい」の方、それはどなたですか**？：(記入例：義父)
 - 6-4. **6に挙げた方のなかで定期的（月2回以上）の通院を必要とする方はいますか**？：はい・いいえ
 - 6-5. **6-4で「はい」の方、それはどなたですか**？：(記入例：次男7歳)
7. **一緒に暮らしている方で単身赴任の方はいますか**？：はい・いいえ
8. **上の7.で「はい」の方、それはどなたですか**？：パートナー・自分・その他()
9. **これまでに転職した経験はありますか**？：はい・いいえ
 - 9-1. **「はい」の方、何回転職されましたか**？：_____回

問1から27の質問にお答えください。

- 妊娠・出産・子育ての講座について（質問1～7）
- 産前産後のサポートについて（問8～12）
- 現在の家事（育児）について（問13～17）
- 妊娠・出産・育児の悩みごとについて（問18～25）
- (パートナーがいる方へ)あなたとパートナーについての質問(問26～27)

「妊娠・出産・子育ての講座について」

- 【1】 お産や子育てについて学ぶ講座に参加したことがありますか？：はい・いいえ（「いいえ」の方は問6へお進みください）
- 【2】 「はい」の方、一番最近受けた講座はどこの主催か覚えていますか？：自治体を実施する講座・産院が実施する講座・その他の企業/団体が実施する講座・覚えていない

地図①：西宮市内で講座に参加した方は、地図①に講座の会場となった場所が公共の施設なら白のシールを貼りその上に赤字で番号を書いてください。その他は各色のシールを貼ってください。

【3】 「はい」の方、テーマを覚えていますか？：(テーマ) _____

【4】 「はい」の方、その講座はどのように知りましたか？(全て選択)：友人/知人・SNS・市政ニュース・あおぞら館/子育てひろば/児童館・産院・マタニティ関連の習い事(マタニティヨガクラスなど)・西宮市の両親学級/母親学級(マザーズクラス)・宮っ子・ともも・シティライフ・神戸新聞スキップ・ミヤママスタイル・ネット通信・公民館/市役所/支所にあったチラシやポスター・保健所・保健センター・図書館・西宮市子育てコンシェルジュ・ミヤハグ・インターネット・行政からのお知らせ(母子手帳受取時に配布されたチラシなど)・

その他 _____

4-1. 一番最近、妊娠、出産、子育てに関連することで、検索に使ったキーワードを覚えていたら教えてください：(キーワード) _____

【5】 「はい」の方、参加された講座の中で、3に挙げた講座以外で、印象に残っている講座があれば、そのテーマ教えてください：(テーマ) _____

【6】 以下のなかで、これから受けたい講座はありますか？(選択は最大3つまで)：
産前産後の体のケアについて・産前産後の心のケアについて・パートナーとの関係について・産前産後の家事・育児支援制度について・妊婦の食と栄養について・離乳食の作り方について・妊娠中の運動(マタニティヨガ、スイミングなど)・特に受けたい講座はない

6-1. 上記の講座にはないけれど、特に受けたいテーマがある場合は教えてください

(テーマ) _____

【7】 妊娠中にパートナーと一緒に参加した講座等がありましたか？：はい・いいえ

7-1. 「はい」の方、それは3や5の講座と同じ講座ですか？：はい・いいえ

7-2. 「いいえ」の方、一緒に参加した講座のテーマを教えてください：

(テーマ) _____

地図①：西宮市内で講座に参加していれば、講座の会場となった場所が公共の施設なら地図①に白のシールを貼り、その上に番号を記入してください。その他は各色のシールを貼ってください。

《産前・産後のサポートについて》

【8】 里帰り出産(もしくは産後実家に帰る)予定していますか？(男性の場合はパートナーのケースでお答えください)：はい・いいえ・わからない

地図②：実家が西宮市内なら、地図②にシールを貼ってください。

8-1. 現在、通っている産院・助産院はどちらですか？：(産院名) _____

地図①：産院・助産院が西宮市内なら、地図①に白シールを貼り、シール上に1と記入してください。

【9】 次の取り組みのうち、知っているものを選んでください(複数回答可)：西宮市すこやか赤ちゃん訪問事業・西宮市ヘルパー派遣事業・西宮市妊婦への家庭訪問・西宮市子育てコンシェルジュ・ミヤハグ・西宮市ファミリーサポート・西宮市病児/休日保育・西宮市子育て家庭ショートステイ保育・ア・リトルの家事サポート・産後ドゥーラ・民間の家事(育児)サポート・兵庫子育て応援の店・赤ちゃんの駅・あおぞら館/子育てひろば/児童館・こども未来センター・知っているものはない

【10】 これまでに家事（育児）サポート（子どもとの遊びを含む）を頼んだことがありますか？：
はい・いいえ（「いいえ」の方は問12へお進みください）

【11】 11で「はい」の方、それは誰（何）でしたか？（複数の方は、回数の多い人を最大3人選んでください）：実母・実父・義母・義父・きょうだい・親戚・友人・ア・リトル家事サポート・産後ドゥーラ・民間の家事（育児）サポート会社・西宮市ヘルパー派遣事業・西宮市ファミリーサポート・西宮市病児/休日保育・

その他

11-1. 以下の11-1から11-4は、「実母・実父・義母・義父・きょうだい・親戚・友人」以外を選択した方に質問です。それはどのように見つけましたか？：インターネット検索・友人/知人が利用していた・情報誌（新聞）・案内ちらし・その他

11-2. 定期的にご利用したことがありますか？：はい・いいえ（「いいえ」の方は11-4へ）

11-3. 「はい」の方は、頻度はどのくらいでしたか？：週1回・週2回・それ以上（ ）

11-4. 「いいえ」の方へ：1回しか利用しなかった・複数回利用した

地図②：上に挙げた方で、西宮市内の方がいれば、地図②にシールを貼ってください。

【12】 家事・育児サービスを利用するとしたら、どのサービスを希望しますか？（最大3つ）：
食事づくり・食材と日用品の調達（買い物）・掃除/片付け・子どもの預かり（自宅以外）・子どもの送迎・子どものお世話（自宅）・外出（買い物/通院など）に同行・家事・育児サービスを希望しない

12-1. 家事サービスを希望しない方にその理由を教えてください（複数回答可）：家計の節約のため・夫が反対・義父母が反対・実父母が反対・家事と育児は妻（夫）の仕事で外注するものではない・家事も育児も全て夫婦だけでやっていけるので他人を呼ぶ必要性を感じない・実父母（義父母）がサポートしてくれるので他人のサポートを必要としない・他人を自宅に入れたくない・その他の理由：（理由）

《現在の家事・育児について》

【13】 この1週間であなたがやったすべての家事にチェックをしてください（複数回答可）：
掃除・献立作成と食事づくり・食器洗い・片付け・食材や日用品の買い物（在庫管理含む）・洗濯・ゴミ捨て・銀行/役所/支払いなどの手続き・

その他

【14】 この1週間であなたがやったすべての育児にチェックしてください（複数回答可）：
着替え（オムツ替え）・子ども用の洗濯・子ども用品の在庫管理・子ども用品の買い物・子どもと遊ぶ・寝かしつけ・お風呂に入れる・ご飯づくり・ご飯を食べさせる・幼稚園/保育園等の送迎・幼稚園/保育園等々との連絡・ その

他

【15】 パートナーがいる方は、この1週間でパートナーがやったすべての家事にチェックをしてください（複数回答可）：掃除・献立作成と食事づくり・食器洗い・片付け・食材や日用品の買い物（在庫管理含む）・洗濯・ゴミ捨て・銀行/役所/支払いなどの手続き・ その他

【16】 パートナーがいる方は、この1週間であなたのパートナーがやったすべての育児にチェックをしてください（複数回答可）：着替え（オムツ替え）・子ども用の洗濯・子ども用品の在庫管理・子ども用品の買い物・子どもと遊ぶ・寝かしつけ・お風呂に入れる・ご飯づくり・ご飯を食べさせる・幼稚園/保育園等の送迎・幼稚

園/保育園等等との連絡・その他

≪家事（育児※上のお子さんがある方）以外のお仕事について≫

- 【17】 現在、あなたご自身は、家事（育児）以外のお仕事をされていますか？：はい・いいえ（「いいえ」の方は問 20 にお進みください）

地図①：「はい」の方で、西宮市内でお仕事をしている方は、地図①に黄色のシールを職場に貼ってください。

- 【18】 「はい」の方、育休を取る予定ですか？：はい・いいえ

- 【19】 先週 1 週間で帰宅時間（仕事を終えた時間）で一番多いのは何時でしたか？：午後 5 時前・午後 5 時～6 時・午後 6 時～7 時・午後 7 時～8 時・午後 8 時～9 時・午後 9 時以降・その他

≪妊娠・出産・子育ての悩みごとについて≫

- 【20】 あなたが妊娠や出産、子育てについての情報を得ているインターネットのサイトはどこですか？：

- 【21】 （自分が/パートナーが）妊娠中、自分の心と体の悩みを誰かに相談したことがありますか？：はい・いいえ（「いいえ」の方は問 24 にお進みください）

- 【22】 「はい」の方、それはどなたですか？複数の方は、相談した回数の多い方にチェックをしてください（最大 3 つお選びください）：パートナー・産科医・看護師/助産師・保健師・保育園や学校の先生・実父母・義父母・きょうだい・友だち・ア・リトルメンバー・産後ドゥーラ・西宮市ファミリーサポート・民間の家事（育児）サポート会社・西宮市派遣のヘルパー・インターネット検索（ヤフー智恵袋など）・その他

地図②：上に挙げた方で、西宮市内の方がいれば、地図②にシールを貼ってください。

- 【23】 「はい」の方、相談した内容は何でしたか？（最大 3 つまで）：自分の体のこと・自分の心のこと・子どものこと・パートナーのこと・家事のこと・パートナー以外の家族のこと・仕事のこと・経済的なこと・

その他

- 【24】 問 21 が「いいえ」の方、その理由は何ですか？（1 つ選択）：パートナーに相談しなかったけど出来なかった・身近に相談できる人がいなかった・相談場所がわからなかった・自分で解決すべきだと思った・特に理由はない・相談したいことはなかった・その他

- 【25】 妊娠中、こんなことはありましたか？（複数回答可）：騒音が気になる・気が沈んだり、気が重くなる・朝が特に無気力・会話に集中できない・訳もなくイライラして家族にあたってしまう・どれも該当なし

25-1. (パートナーは)マタニティマークをつけていますか？：はい・いいえ

25-2. 「はい」の方、初期のときにも助けてもらったことがありますか？：はい・いいえ

25-3. 「いいえ」の方で、助けてもらったことはありますか？：はい・いいえ

25-4. 25-2 と 25-3 で「ある」方、それはどこでしたか？：

25-5. (パートナーの)お腹が目立つようになってから、外出先で助けてもらったことはありますか？：はい・いいえ その他：

25-6. 「はい」の方、誰でしたか？（記入例：近くにいた 40 代女性、赤ちゃん連れ）

25-7. 「どこ」でしたか？：

25-8. 妊娠後の外出で、これまで不安になったり、気分が悪くなったり、危険を感じた場所がありましたか？：ある・ない・その他 （「ない」方は、問 26 へ）

25-9. 「ある」方、それはどこでしたか？：

地図①：西宮市内なら、地図①その場所に青いシール貼ってください。

25-10. 「ある」方、その時、誰かに助けを求めましたか？：□はい・□いいえ

25-11. 「はい」の方、助けてもらえましたか？：□はい・□いいえ（「いいえ」の方は、問26へ）

25-12. 「はい」の方、誰に助けられましたか？：（記入例：近くにいた40代女性、赤ちゃん連れ）

《（パートナーがいる方へ）あなたとパートナーについて》

【26】 一番最近パートナーと15分以上話しをしたのはいつですか？：□今日・□昨日・□1週間くらい前・□1カ月以内でどこか・□1カ月から5カ月以内でどこか・□半年以上前・□1年以上前・□いつか覚えていない・□LINEやSNSでのやりとりのみ（電話や対面なし）

【27】 パートナーと次のことを話し合ったことがありますか？（複数回答可）：□産後の心と体の変化について・□子どもに必要な用品の準備（買い物など）について・□産後の家事・□育児について・□お金のこと・□将来の家族像について・□産後の仕事について・□子どもの預け先（保育所など）について・□自分の時間の持ち方について・

□その他_____.

これで質問は終わりです。アンケートへのご協力ありがとうございました。

(2) 0～3歳の子どものいる方のアンケート票

インタビュー実施日：2018年 月 日（ ） 回答者：ア・リトル会員・非会員

インターネット入力：本人が入力済・調査員が入力した日（ 月 日） 調査員①：_____

協力者ギフト：□バンドエイド・□綿棒・□a little クーポン（必ずチェックしてください）

部分^①が個別インタビュー項目案です。

《あなたについて教えてください》*下記1から9は必ず聞いてください。

1. 性別：□女・□男・□その他

2. 年齢：□10代・□20代・□30代・□40代・□50代・□60代以上

3. 出身：西宮市のご出身ですか？：□はい・□いいえ

4. 西宮市に來られてどのくらいですか？：□3ヶ月以内・□半年以内・□1年以内・□1年～3年のあいだ・□3年～4年のあいだ・□5年以上・□西宮市外在住なので該当しない

5. お住まいの地域を教えてください：□塩瀬・□山口・□仁川&甲東園・□樋ノロ・□西宮北口・□上甲子園・□鳴尾・□甲陽園&苦楽園・□上ヶ原・□夙川・□香櫛園・□本庁周辺・□浜脇・□西宮浜・□地区がわからない：(町名)_____ . □西宮市外

地図①&②：地図①&②町名（もしくは一番近くの目印となる場所）を聞いた後、町名近くに、地図①なら赤のシールに番号を書いて貼り、シール横に☆マークを記入。地図②ならインタビュー協力者の色のシールを貼り、シール横☆マークを記入。

6. 一緒にお住まいの方を教えてください：□パートナー・□子ども（乳幼児）・□子ども（小学生以上）・□子ども（中学生）・□子ども（高校生以上）・□その他_____ .

6-1. 子どもの人数は何人ですか？（ 人）

6-2. 6に挙げた方の中で、介護が必要な方はいますか？：□はい・□いいえ

6-3. 6-2で「はい」の方、それはどなたですか？：（記入例：義父）_____

6-4. 6に挙げた方の中で定期的（月2回以上）の通院を必要とする方がいますか？：□はい・□いいえ

6-5. 6-4で「はい」の方、それはどなたですか？：_____ .

7. 一緒に暮らしている方で単身赴任の方はいますか？：はい・いいえ
8. 上の7.で「はい」の方、それはどなたですか？：パートナー・自分・その他（ ）
9. これまでに転勤した経験はありますか？：はい・いいえ

9-1. 「はい」の方、何回転勤されましたか？：_____回

問1から31の質問にお答えください。

- 妊娠・出産・子育ての講座について（質問1～8）
- 産前・産後のサポートについて（問9～13）
- 現在の家事（育児）について（問14～17）
- 家事と育児以外の仕事について（問18～20）
- お子さん連れの外出について（問21～23）
- 妊娠・出産・育児の悩みごとについて（問24～29）
- （パートナーがいる方へ）あなたとパートナーについて（問30～31）

《妊娠・出産・子育ての講座について》

- [1] お産や子育てについて学ぶ講座に参加したことがありますか？（「いいえ」の方は問7へお進みください）：はい・いいえ
[2] 「はい」の方、いつ参加しましたか？：産前・産後・産前と産後の両方
[3] 「はい」の方、一番最後に受けた講座はどこ主催か覚えていますか？：自治体の実施する講座・産院が実施する講座・その他の企業・団体が実施する講座・覚えていない

地図①：西宮市内で講座に参加していれば、講座の会場となった場所が公共の施設なら白のシールを「地図①」貼りその上に番号を赤字で書いてください。その他は各色のシールを貼ってください。

- [4] 「はい」の方、テーマを覚えていますか？：_____（テーマ）
[5] 「はい」の方、その講座はどのように知りましたか？（全てを選択）：友人/知人・SNS・市政ニュース・あおぞら館/子育てひろば/児童館・産院・マタニティ関連の習い事（マタニティヨガクラスなど）・西宮市の両親学級/母親学級（マザーズクラス）・宮っ子・ともも・シティライフ・神戸新聞スキップ・ミヤママスタイル・ネット通信・公民館/市役所/支所にあったチラシやポスター・保健所・保健センター・図書館・西宮市子育てコンシェルジュ・ミヤハグ・インターネット検索・西宮市男女共同参画センターウェブ・行政からのお知らせ（母子手帳受取時に配布されたチラシなど）その他_____

5-1. 一番最近、妊娠、出産、子育てに関連することで、検索に使ったキーワードを教えてください：_____（キーワード）

- [6] 「はい」の方、参加された講座の中で、4に挙げた講座以外で、印象に残っている講座があれば、そのテーマ（主催）を教えてください：_____（テーマ）
[7] 以下のなかで、これから受きたい講座（受けたかった講座）はありますか？（最大3つまで選んでください）：産前産後の体のケアについて・産前産後の心のケアについて・パートナーとの関係について・産後（産前）の家事・育児支援制度について・産後（妊婦）の食と栄養について・離乳食の作り方について・出産後（妊娠中）の運動（ヨガ、スイミングなど）・リストの中に特に受きたい講座はない
備考：_____）

- [8] 妊娠中から産後の今までに、パートナーと一緒に参加した講座等がありましたか？：

はい・いいえ

8-1. 「はい」の方、それは1や6の講座と同じですか？：はい・いいえ

8-2. 「いいえ」の方、一緒に参加した講座のテーマを教えてください：(テーマ) _____

地図①：西宮市内で講座に参加していれば、講座の会場となった場所が公共の施設なら白のシールを地図①に貼り、その上に赤字で番号を記入してください。その他は各色のシールを貼ってください。

≪産前産後のサポートについて≫

【9】 里帰り出産でしたか？（男性の場合は、パートナーのケースでお答えください）：はい・いいえ

地図②：実家が西宮市内なら、地図②にシールを貼ってください。

9-1. 出産した産院・助産院はどちらですか？：(病院名) _____

地図①：産院・助産院が西宮市内なら、地図①に白シールを貼り、赤字で1と記入してください。

【10】 次の取り組みのうち、知っているものを選んでください（複数回答可）：西宮市すこやか赤ちゃん訪問事業・西宮市ヘルパー派遣事業・西宮市妊婦への家庭訪問・西宮市子育てコンシェルジュ・ミヤハグ・西宮市ファミリーサポート・西宮市病児/休日保育・西宮市子育て家庭ショートステイ保育・ア・リトルの家事サポート・産後ドゥーラ・民間の家事（育児）サポート・兵庫子育て応援の店・赤ちゃんの駅・あおぞら館/子育てひろば/児童館・こども未来センター・知っているものはない

【11】 これまでに家事・育児サポート（子どもとの遊びも含む）を頼んだことがありますか？：はい・いいえ（「いいえ」の方は問13にお進みください）

【12】 「はい」の方、それは誰（何）でしたか？（複数の方は、回数の多い人を最大3人選んでください）：実母・実父・義母・義父・きょうだい・親戚・友人・ア・リトル家事サポート・産後ドゥーラ・民間の家事（育児）サポート会社・西宮市ヘルパー派遣事業・西宮市ファミリーサポート・西宮市病児/休日保育・

その他

12-1. 以下、12-1 から 12-4 は「実母・実父・義母・義父・きょうだい・親戚・友人」以外を選択した方に質問です。それはどのように見つけましたか？：インターネット検索・友人/知人が利用していた・情報誌（新聞）・案内チラシ・その他 _____

12-2. 定期的にご利用したことがありますか？：はい・いいえ（「いいえ」の方は12-4へ）

12-3. 「はい」の方は、頻度はどのくらいでしたか？：週1回・週2回・それ以上

12-4. 「いいえ」の方へ：1回しか利用しなかった・複数回利用した

地図②：上に挙げた方で、西宮市内の方がいれば、地図②にシールを貼ってください（おおよその位置で構いません）。

【13】 家事・育児サービスを利用するとしたら、どのサービスを希望しますか？（最大3つ）：食事づくり・食材と日用品の調達（買い物）・掃除・片付け・子どもの預かり（自宅以外）・子どもの送迎・子どものお世話（自宅）・外出（買い物/通院など）に同行・家事・育児サービスを希望しない

13-1. 「家事サービスを希望しない方」にその理由を教えてください（複数回答可）：家計の節約のため・夫が反対・義父母が反対・実父母が反対・家事と育児は妻（夫）の仕事で外注するものではない・家事も育児も全て夫婦だけでやっていけるので他人を呼ぶ必要性を感じない・実父母（義父母）がサポートして

くれるので他人のサポートを必要としない・他人を自宅に入れたくない・

その他：(理由) _____

《現在の家事・育児について》

- 【14】 この1週間であなたがやったすべての家事にチェックをしてください(複数回答可)：
掃除・献立作成と食事づくり・食器洗い・片付け・食材や日用品の買い物(在庫管理含む)・洗濯・ゴミ捨て・銀行/役所/支払いなどの手続き・その他 _____。
- 【15】 この1週間であなたがやったすべての育児にチェックしてください(複数回答可)：
着替え(オムツ替え)・子ども用の洗濯・子ども用品の在庫管理・子ども用品の
買い物・子どもと遊ぶ・寝かしつけ・お風呂に入れる・ご飯づくり・ご飯を
食べさせる・幼稚園/保育園等の送迎・幼稚園/保育園等々との連絡・その他 _____。
- 【16】 パートナーがいる方は、この1週間でパートナーがやったすべての家事にチェックを
してください(複数回答可)：掃除・献立作成と食事づくり・食器洗い・片付け・
食材や日用品の買い物(在庫管理含む)・洗濯・ゴミ捨て・銀行/役所/支払い
などの手続き・その他 _____。
- 【17】 パートナーがいる方は、この1週間であなたのパートナーがやったすべての育児にチェ
ックをしてください(複数回答可)：着替え(オムツ替え)・子ども用の洗濯・
子ども用品の在庫管理・子ども用品の買い物・子どもと遊ぶ・寝かしつけ・お
風呂に入れる・ご飯づくり・ご飯を食べさせる・幼稚園/保育園等の送迎・幼稚
園/保育園等々との連絡・その他 _____。

《家事・育児以外の仕事について》

- 【18】 現在、あなたご自身は、家事・育児以外のお仕事をしていますか？：はい・いいえ
(「いいえ」の方は問21へお進みください)
地図①：「はい」の方で、西宮市内でお仕事をしている方は、地図①に黄色のシールを職場
に貼ってください。
- 【19】 「はい」の方、育休を取りましたか？：はい・いいえ
- 【20】 先週1週間の帰宅時間(仕事を終えた時間)で一番多いのは何時でしたか？：午後5
時前・午後5時～6時・午後6時～7時・午後7時～8時・午後8時～9時・
午後9時以降 その他： _____。

《お子さん連れの外出について》

- 【21】 この3週間の間に、お子さん連れで外出しましたか？：はい・いいえ・覚えてな
い(「いいえ」の方は問24へお進みください。) **個別インタビューでは「いいえ」の方**
は、21-1へお進みください。続いて23-1にお進みください。
21-1. 「いいえ」の方で、子どもを預けて一人で外出した方、預け先はどこ(誰)ですか？：
(預けた人・場所)： _____
- 地図②**：預けた人が西宮市内の方の場合は、地図②にシールを貼ってください。
- 【22】 「はい」の方、何回くらいですか？：1回・2~3回・4回以上・覚えていない
- 【23】 「はい」の方、外出した場所はどこですか？(複数ある方は、回数の多いものを最大3
つ選んでください)：公園・スーパー・阪急西宮ガーデンズ・ガーデンズ以外
の商業施設・あおぞら館/子育てひろば/児童館・子ども未来センター・病院/助産
院・保健センター・市役所/支所・保育園/学校の送迎・友人宅・実家・習い
事の教室・職場・イベント・その他： _____

地図①：地図①に、お子さん連れで西宮市内で外出した場所に各色のシールを貼ってくださ
い。

23-1. お子さん連れの外出で、これまで不安になったり、気分が悪くなったり、危険を感じ

た場所がありましたか？：□ある・□ない

23-2. 「ある」方、それはどこでしたか？(場所)_____

地図①：その場所が、西宮市内なら地図①に青いシール貼ってください。

23-3. 「ある」方、その時、誰かに助けを求めましたか？：□はい・□いいえ

23-4. 「はい」の方、その時、助けてもらえましたか？：□はい・□いいえ

《妊娠・出産・育児の悩みごとについて》

【24】 あなたが育児についての情報を得ているインターネットのサイトはどこですか？：

(サイト名)_____.

【25】 産後(妊娠中)に自分の心と体の悩みを誰かに相談したことがありますか？(1つ選択)：
□はい(妊娠中も産後も両方)・□はい(妊娠中だけ)・□はい(産後だけ)・□いいえ(妊娠中も産後も両方) (「いいえ」の方は問28へお進みください。)

【26】 「はい」の方、それはどなたですか？複数の方は、相談した回数の多い方にチェックをしてください(最大3人まで)：□パートナー・□産科医・□看護師/助産師・□保健師・□保育園や学校の先生・□実父母・□義父母・□きょうだい・□友だち・□ア・リトルメンバー・□産後ドゥーラ・□西宮市ファミリーサポート・□民間の家事(育児)サポート会社・□西宮市派遣のヘルパー・□インターネット検索(ヤフー知恵袋など)・

□その他_____.

地図②：上に挙げた方で、西宮市内の方がいれば、地図②にシールを貼ってください。

【27】 「はい」の方、相談した内容は何でしたか？(最大3つまで)：□自分の体のこと・□自分の心のこと・□子どものこと・□パートナーのこと・□家事のこと・□パートナー以外の家族のこと・□仕事のこと・□経済的なこと・□その他_____.

【28】 問25が「いいえ」の方、その理由は何ですか？(1つ選択)：□パートナーに相談しなかったけど出来なかった・□身近に相談できる人がいなかった・□相談場所がわからなかった・□自分で解決すべきだと思った・□特に理由はない・□相談したいことはなかった・□その他_____.

【29】 出産後、こんなことはありましたか？(複数回答可)：□わけもなくイライラして落ち着かない・□気分が落ち込んで涙が出てくる・□寝つきが悪かったり、逆に眠りすぎたりしてしまう・□食欲がない、または逆に食べすぎてしまう・□訳もなく子どもやパートナーにつらくあたってしまう・□何事も自分が悪いと考えてしまう・□漠然と不安になる・□他人との交流を面倒に感じる・□該当無

29-1. 産前から産後3カ月の時期で一番しんどかったのはいつですか？：□産前(妊娠カ月頃)・□産後(産後カ月頃)・□覚えてない・□特にしんどい時期はなかった

《(パートナーがいる方へ)あなたとパートナーについて》

【30】 一番最近パートナーと15分以上話しをしたのはいつですか？：□今日・□昨日・□1週間くらい前・□1カ月以内でどこか・□1カ月から5カ月以内でどこか・□半年以上前・□1年以上前・□いつか覚えていない・□LINEやSNSでのやりとりのみ(電話や対面なし)

【31】 パートナーと次のことを話し合ったことがありますか？(複数回答可)：□産後の心と体の変化について・□子どもに必要な用品の準備(買い物など)について・□産後の家事・□育児について・□お金のこと・□将来の家族像について・□産後の仕事について・□子どもの預け先(保育所など)について・□自分の時間の持ち方について・

□その他_____.

これで質問は終わりです。アンケートへのご協力ありがとうございました。

「西宮で迎える産前・産後」調査報告

～「みんなで助け合う子育て」実現への道しるべ～

発行：認定 NPO 法人ムラのミライ
2019 年 3 月

認定 NPO 法人ムラのミライ

〒662-0856 兵庫県西宮市城ヶ堀町 2-22 早川総合ビル 3F

電話&Fax：0798-31-7940 MAIL：expert@muranomirai.org ホームページ：<http://muranomirai.org>

1993 年に設立された日本と海外の両方で地域づくりを担う人材育成に取り組む NPO です。当事者自らが課題を分析し、問題解決に動き出す「メタファシリテーション」という独自の手法で、国内外の地域づくりプロジェクトをサポートしています。2018 年から a little と共に「西宮で広げる地域で助け合う子育ての輪プロジェクト」を実施をしています。

a little (ア・リトル)

〒662-0964 兵庫県西宮市弓場町 6-35-206

電話：090-5557-9783 MAIL：alittle.infomail@gmail.com ホームページ：<https://alittle.sakura.ne.jp>

2015 年に設立。西宮市内の子育て世代の女性を中心に「つどい場」「学びの場」づくりや家事サポートなどの「助け合いのしくみ」づくりを行っている市民グループです。

「西宮で迎える産前・産後」調査報告書 PDF、ダイジェスト版カラーリーフレットなどのデータはこちらのサイトからダウンロードできます。<http://muranomirai.org/kosodate2018>

この事業はジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの助成を受けて実施しました。